

官報號外

昭和十八年二月三日

○帝國議會衆議院議事速記錄第八號

昭和十八年二月二日(火曜日)

午後一時七分開議

議事日程 第七號

昭和十八年二月二日

午後一時開議

第一 戰時行政特例法案(政府提出)

第一讀會

第二 許可認可等臨時措置法案(政府提出)
第三 教育基金特別會計法外二十三法
第四 石油專賣法案(政府提出)

第一讀會

第五 交易營園法案(政府提出)

第一讀會

第六 燃料局特別會計法案(政府提出)
(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノ爲
茲ニ掲載ス)

第一 戰時行政特例法案(政府提出)
第二 許可認可等臨時措置法案(政府提出)
第三 教育基金特別會計法外二十三法
第一 戰時行政特例法案(政府提出)
第一 許可認可等臨時措置法案(政府提出)
第一 許可認可等臨時措置法案(政府提出)
第一 許可認可等臨時措置法案(政府提出)
第一 訸出、協議、届出、報告等ヲ要セザルコトトスルコト

一昨一日東條内閣總理大臣ヨリ左ノ通牒アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

同 大藏書記官 加藤 八郎
阪田 泰一

官報號外

昭和十八年二月三日

衆議院議事速記錄第八號

議長ノ報告

戰時行政特例法案外一件

第一讀會

現地關係指揮官各位ニハ閣下ヨリ宜敷御

傳達ヲ乞フ

戰時行政特例法案

明治二十五年二月三十一日
第三種郵便物認可

第八十一回帝國議會大藏省所管事務政府
委員被仰付

○議長(岡田忠彦君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、御諸リ致シマス、豫算委員長及ビ公立
學校職員功加俸國庫補助法中改正法律案
外一件委員長ヨリ、本日本會議中委員會ヲ
開キタイトノ申出ガアリマス、之ヲ許可ス
ルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ之ヲ許可致シマス

昨日議長ニ御一任ニナリマシタ「レンネル」

島沖海戦ノ戰果ニ對スル祝賀竝ニ感謝ノ電
報ハ、昨日山本聯合艦隊司令長官宛發送致
シマシタ、茲ニ其ノ電文ヲ朗讀致シマス

島沖海戦ノ戰果ニ對スル祝賀竝ニ感謝ノ電
報ハ、昨日山本聯合艦隊司令長官宛發送致
シマシタ、茲ニ其ノ電文ヲ朗讀致シマス

緒戦以來毎回海戦ニ於テ絶大ナル戰果ヲ

收メ中外ヲ驚嘆セシメタル忠勇無双ノ帝

國海軍航空部隊ハ今又レンネル島沖ニ於

テ有力ナル敵大艦隊ヲ捕捉シテ強襲猛攻

或ハ之ヲ擊沈シ或ハ之ヲ擊破シテ執拗頑

強ナル敵反抗企圖ヲ挫折ス勳功洵ニ偉大

全國民齊シク感起感奮セザルナシ衆議院

ハ特ニ院議ヲ以テ深甚ナル感謝慶祝ノ誠

意ヲ披瀝シ併セテ將兵諸士ノ勇健ヲ祈ル

○議長(岡田忠彦君) 尚ホ一言致シマス、
去ル一月二十九日本會議ニ於ケル本多市郎
君ノ質疑中「此ノ戰争ニ勝ツ爲ニ必要デア
リマシタナラバ」以下四十三字ノ言辭ハ、
同君ヨリ之ヲ取消シタキ旨議長マデ申出ガ
アリマシタ、議長ニ於テハ議會ノ權威ノ爲
メ、本多君ニ對シ、將來斯ノ如キコトナキ
ヤウ十分ニ注意ヲ致シマシタ所、同君ニ於
テモ之ヲ諒承セラレマシタ、仍テ其ノ部分
ヲ取消スコトト致シ、之ヲ速記錄ヨリ削除
致シマス——日程第一乃至第三ハ便宜上一
括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第一、戰時行政特例法案、日
程第二、許可認可等臨時措置法案、日程第
三、教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢
止ニ關スル法律案、右三案ヲ一括シテ第一
讀會ヲ開キマス——東條内閣總理大臣

ム

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施

ハ官吏ノ職權ニ係ル罰則ノ適用ニ付テハ

職權ヲ乙ノ行政廳又ハ官吏ヲシテ行ハ

シムルコト

二 法律ニ依リ監督又ハ命令、處分其ノ

他ノ行爲ヲ爲ス甲ノ行政廳又ハ官吏ノ

職權ヲ乙ノ行政廳又ハ官吏ヲシテ行ハ

シムルコト

一 法律ニ依ル人又ハ法人ノ行爲ニ對ス
ル禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除
スコトヲ得

大東亞戰爭ニ際シ生產力擴充其ノ他綜合
國力ノ擴充運用ノ爲特ニ必要アルトキハ勅
令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル措置ヲ爲

トスコトヲ得

戰時行政特例法

第一 戰時行政特例法案

第二 許可認可等臨時措置法案

第三 教育基金特別會計法外二十三法

第一 戰時行政特例法案(政府提出)

第一 許可認可等臨時措置法案(政府提出)

第一 訸出、協議、届出、報告等ヲ要セザルコト

一 許可、認可、免許、特許、承認、檢

協議、届出、報告等ヲ要セザルコト

ニ掲グル措置ヲ爲スコトヲ得

一 許可、認可、免許、特許、承認、檢査、協議等ヲ要セズ届出、報告等ヲ以テ足ルモノトスルコト

三 許可、認可、免許、特許、承認、檢査等ノ申請アリ又ハ協議アリタルトキ一定期間ノ經過ニ依リ許可、認可、免許、特許、承認、檢査等アリ又ハ協議調ヒタルモノト看做スコト

四 甲法令ニ依ル許可、認可、免許、特許、承認、檢査、協議、届出、報告等アリタルトキ乙法律ニ依ル許可、認可、免許、特許、承認、檢査等ヲ受クル

五 許可、認可、免許、特許、承認、檢査等ヲ爲シ又ハ届出、報告等ヲ受クル

六 前各號ニ掲タルモノノ外手續又ハ處理ノ簡捷化ノ爲ノ必要ナル措置

前項第五號ノ場合ニ於テハ甲ノ行政廳又ハ官吏ヲシテ行ハシムルコト

七 前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

八 官吏ト看做ス

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

九 認可、免許、特許、承認、檢査等ノ申請アリ又ハ協議アリタルトキ一定期間ノ經過ニ依リ許可、認可、免許、特許、承認、檢査等アリ又ハ協議調ヒタルモノト看做スコト

十 甲法令ニ依ル許可、認可、免許、特許、承認、檢査、協議、届出、報告等アリタルトキ乙法律ニ依ル許可、認可、免許、特許、承認、檢査等ヲ受クル

十一 許可、認可、免許、特許、承認、檢査等ヲ爲シ又ハ届出、報告等ヲ受クル

十二 前各號ニ掲タルモノノ外手續又ハ處理ノ簡捷化ノ爲ノ必要ナル措置

前項第五號ノ場合ニ於テハ甲ノ行政廳又

ハ官吏ヲシテ行ハシムルコト

十五 前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

十六 官吏ト看做ス

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

十七 官吏ヲシテ行ハシムルコト

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

十八 官吏ト看做ス

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

十九 官吏ヲシテ行ハシムルコト

前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ規定實施ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二十 官吏ト看做ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

東北振興電力株式會社法

航路統制法

大正五年法律第十六號

明治三十二年法律第五十三號

絲價安定融資損失善後處理法
輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法

絲價安定融資擔保生絲買收法
絲價安定融資損失善後處理法

絲價安定融資損失善後處理法
絲價安定融資損失善後處理法

附 則

第三條 本法中第一條及第四條乃至第六

條ノ規定ハ昭和十八年四月一日ヨリ之

ヲ施行シ其ノ他ノ規定ハ公布ノ日ヨリ

之ヲ施行ス

教育基金特別會計法
職員健康保険特別會計法
對支文化事業特別會計法
昭和十年法律第五號
昭和十三年法律第九號

第二條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス
昭和十一年法律第三十七號
昭和二年法律第四十一號
明治三十八年法律第三十五號
土地賃貸價格改訂法
土地賃貸價格調查法
土地賃貸價格調查委員會法

第五條 職員健康保険特別會計ニ屬スル
積立金ハ之ヲ健康保險特別會計ニ歸屬

ヲ一般會計ニ繰越シ使用スルコトヲ得
會計ニ歸屬セシム

昭和十七年度對支文化事業特別會計歲
出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之
ヲ一般會計ニ繰越シ使用スルコトヲ得
會計ニ歸屬セシム

第六條 健康保險特別會計法中左ノ通改
正ス

第三條ヲ削リ第四條ヲ第三條トシ第五
條ヲ第四條トス

第七條ヲ第六條トス

第六條中「大藏省預金部ニ之ヲ預入ル
ルコトヲ得」ヲ「之ヲ大藏省預金部ニ預
入ルベシ」ニ改メ同條ヲ第五條トス

第七條ヲ第六條トス

第七條本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ

保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之

第九條中「收入支出及積立金ノ運用ニ
關スル規定」ヲ「收入支出ニ關スル規
程」ニ改ム

第七條 第一條ノ規定施行前ニ輸出資金
及輸出品製造資金融通損失補償法第一
條ノ契約ニ基キ銀行（商工組合中央金
庫ヲ含ム）ガ融通シタル資金ニ關シテ
ハ舊法ハ第二條ノ規定施行後ト雖モ仍
其ノ效力ヲ有ス

第七條 第二條ノ規定施行前ニ爲シタル
行為ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ舊法
ハ同條ノ規定施行後ト雖モ仍其ノ效力
ヲ有ス

ヲ迎テ參マシタル國民活動ニ對シマスル統制的制限ハ、必ズシモ重複煩雜ノ弊ナシテ生産力ノ増強、其ノ他國家總力ノ發揮ガ阻碍サレルノ結果ヲ招來シテ居ル場合モ少クナイト存ズルノデアリマス、言フマデモノク統制ニ依ル制限ノ目的ト致シマスル所ハ、制限其ノモノニアラズシテ、眞ニ必要ナル事項ニ國力ヲ集中シ、最大ノ效率ヲ擧ゲントスルニアルノデアリマス、即チ今日ニ於キマシテハ、一方諸般ノ統制ノ強化ハ必要ナルコトデアリマスルガ、他面戦争遂行ニ眞ニ必要ナル生産部門ニ對シマシテハ、出來得ル限リ統制ノ畫一的制限ニ依ル障碍ヲ排除致シマシテ、之ニ對シテ彈力アル指導監督ヲ行ヒ、而シテ最高ノ能率ヲ發揮セシメ、以テ時局ノ要求ヲ充足スルノ要アリト信ズルノデアリマス、尙又戦時ニ於キマシテ特別ノ事情ノ存シマスル場合ニ於キマシテハ、平時ナラバ其ノ禁止制限ガ必要ナリト認メラレル所ノ事項ト雖モ、特例的措置ト致シマシテ之ヲ行フコトヲ許容シ、或ハスルノ要アリト信ズルノデアリマス

次ニ又行政事務ガ其ノ性質ニ從ヒ數箇ノ行政廳ニ所管セラレ、隨テ其ノ指導監督ガ複雜多岐トナリ、是ガ爲ニ生産事業、其ノ他國民生活ニ障禦ヲ與ヘツツアル場合モ少クナイト存ズルノデアリマス、隨ヒマシ

テ指導監督機構ヲ能フ限リ單一化シ、一元化シ、行政廳ノ指導監督ヲ簡素強力ナラシテ生産力ノ发挥、其ノ他國家總力ノ發揮ガ阻碍サレルノ結果ヲ招來シテ居ル場合モ少クナイト存ズルノデアリマス、言フマデモノク統制ニ依ル制限ノ目的ト致シマスル所ハ、制限其ノモノニアラズシテ、眞ニ必要ナル事項ニ國力ヲ集中シ、最大ノ效率ヲ擧ゲントスルニアルノデアリマス、即チ今日ニ於キマシテハ、一方諸般ノ統制ノ強化ハ必要ナルコトデアリマスルガ、他面戦争遂行ニ眞ニ必要ナル生産部門ニ對シマシテハ、出來得ル限リ統制ノ畫一的制限ニ依ル障碍ヲ排除致シマシテ、之ニ對シテ彈力アル指導監督ヲ行ヒ、而シテ最高ノ能率ヲ發揮セシメ、以テ時局ノ要求ヲ充足スルノ要アリト信ズルノデアリマス、尙又戦時ニ於キマシテ特別ノ事情ノ存シマスル場合ニ於キマシテハ、平時ナラバ其ノ禁止制限ガ必要ナリト認メラレル所ノ事項ト雖モ、特例的措置ト致シマシテ之ヲ行フコトヲ許容シ、或ハスルノ要アリト信ズルノデアリマス

次ニ許可認可等臨時措置法案ニ付キマスルモノノデアリマス、仍テ政府ハ生産力飛躍的擴充強化、其ノ他各般ニ互ル綜合國力ノ擴充發揮ノ具體的要要求ニ應ジマスル爲ニ、戰時特例法案ヲ立案致シタ次第デアリマス、即チ本法案ノ骨子ヘ勅令ヲ以チマシテ、一、法律ニ依ル人又ハ法人ノ行爲ニ對スル禁止又ヘ制限ノ全部又ヘ一部ヲ解除シ、二、法律ニ依リ監督又ヘ命令、處分其ノ他ノ行爲ヲ爲ス行政廳又ヘ官吏ノ職權ヲ他ノ行政廳又ヘ官吏ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ルコトナサントスルモノノデアリマス、尙ホ今回政府ハ、特ニ戰時行政職權特別ナル勅令ノ御制定ヲ奏請致シマシテ、現時局下絶對ニ必要ナル鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等ノ重要軍需物資ノ生産增强ニ關シシ必耍ナル指示ヲナシ得ルノ途ヲ開キ、戰時行政ノ強力ナル推進統一體制ヲ整備致シマスルト共ニ、時宜ニ應ジテ右生産ニ關係アル各省、其ノ他行政官廳及ビ官吏ノ職權ヲ調整シ、以テ指導監督ノ單純一元化ヲ圖ルコトヲ期シテ居ル次第デアリマス

以上述ベマシタル如ク、本法案ハ許可認可等臨時措置法案、及ビ先ニ申上ダマシタル戰時行政職權特別案ト相呼應致シマシ

テ、又他ノ行政上ノ措置ト相俟チマシテ、現時局下各種法的制約ノ強化及ビ指導監督機構ノ錯雜ヨリ來ル所ノ餘弊ヲ除去シ、其ノ民ノ依據スペキ所ヲ簡明直截ナラシメ、以テ國家總力發揮ニ萬全ヲ期スルノ要アリト考ヘルモノノデアリマス、仍テ政府ハ生産力飛躍的擴充強化、其ノ他各般ニ互ル綜合國力ノ擴充發揮ノ具體的要要求ニ應ジマスル爲ニ、戰時特例法案ヲ立案致シタ次第デアリマス、即チ本法案ノ骨子ヘ勅令ヲ以チマシテ、一、法律ニ依ル人又ハ法人ノ行爲ニ對スル禁止又ヘ制限ノ全部又ヘ一部ヲ解除シ、二、法律ニ依リ監督又ヘ命令、處分其ノ他ノ行爲ヲ爲ス行政廳又ヘ官吏ノ職權ヲ他ノ行政廳又ヘ官吏ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ルコトナサントスルモノノデアリマス、尙ホ今回政府ハ、特ニ戰時行政職權特別ナル勅令ノ御制定ヲ奏請致シマシテ、現時局下絶對ニ必要ナル鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機等ノ重要軍需物資ノ生産增强ニ關シシ必耍ナル指示ヲナシ得ルノ途ヲ開キ、戰時行政ノ強力ナル推進統一體制ヲ整備致シマスルト共ニ、時宜ニ應ジテ右生産ニ關係アル各省、其ノ他行政官廳及ビ官吏ノ職權ヲ調整シ、以テ指導監督ノ單純一元化ヲ圖ルコトヲ期シテ居ル次第デアリマス

以上述ベマシタル如ク、本法案ハ許可認可等臨時措置法案、及ビ先ニ申上ダマシタル戰時行政職權特別案ト相呼應致シマシ

テ指導監督機構ヲ能フ限リ單一化シ、一元化シ、行政廳ノ指導監督ヲ簡素強力ナラシテ居ルモノノデアリマス、是ガ爲ニハ法律ヲ要スル事項モ少クナイト考ヘラレマスルノデ、仍テ此ノ趣旨ニ依リマシテ、政府ニ於キマシテハ、今回現行法律中現下ノ狀況ニ鑑

○議長(岡田忠彦君) 森山法制局長官(政府委員森山銳一君登壇)

○政府委員(森山銳一君) 只今議題トナツシテ御説明致シマス、政府ハ大東亞戰爭ノ完遂、大東亞建設ノ完成ノ爲ニハ行政ノ簡素強力化ヲ徹底的ニ斷行スルコトガ是非共必要ト考ヘマシテ、曩ニ行政機構ノ改變及比職員定員ノ減少ヲ實施致シマスルト共ニ、行政事務其ノモノニ付キマシテモ、出來得ル限リ簡素化ヲ圖ツテ參ツタノデアリマス、而シテ從來各種法制ニ基ク許可認可等ヲ要スル事項が多數ニ上リ、且ツ重複併存致シテ居ルコトハ、行政事務ヲ複雜煩瑣ナラシメ、延イテハ或ハ生産力擴充ヲ阻礙シ、或ハ國民生活ヲ窮屈ナラシメ、國民公私ノ敏速潤達ナル活動ヲ妨ダル結果ヲ齎シテ居ル主ナル原因ノ一つヲ成シテ居ルノデアリマス、此ノ實情ニ鑑ミマシテ、政府ハ今日マデ勅令以下ノ命令、又ハ行政的措置ニ於テ其ノ存置ノ理由ノ比較的薄弱ニナツタヤウナモノモアリ、或ハ又其ノ法律ニ依ツテ企圖セラレタ所ノ當初ノ目的方殆ド達成ナツテ居ル次第ゴザイマスガ、是等多數法律ノ中ニハ、或ハ時勢ノ變遷ニ伴ヒマシテ制定當時ノ事情ニ變化ヲ來シ、既ニ現在ニマシテ、行政事務ノ處理モ勢ヒ複雜煩瑣ニナラシメ、内閣總理大臣ニ於テ各省大臣ニ對シ必耍ナル指示ヲナシ得ルノ途ヲ開キ、戰時行政ノ強力ナル推進統一體制ヲ整備致シマスルト共ニ、時宜ニ應ジテ右生産ニ關係アル各省、其ノ他行政官廳及ビ官吏ノ職權ヲ調整シ、以テ指導監督ノ單純一元化ヲ圖ルコトヲ期シテ居ル次第デアリマス

以上述ベマシタル如ク、本法案ハ許可認可等臨時措置法案、及ビ先ニ申上ダマシタル戰時行政職權特別案ト相呼應致シマシ

ミマシテ、存置ノ理由乏シキモノト認メラ
レマス所ノ教育基金特別會計法外二十三法

律ヲ廢止スルコト致シマシテ、是ガ爲メ
マス、但幸御審議ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラ

レンコトヲ希望スル次第アリマス(拍手)
○議長(岡田忠彦君) 各案ノ審査ヲ付託ス
ベキ委員ノ選舉ニ付テ御詔り致シマス

○森下國男君 日程第一乃至第三ノ三案ヲ
一括シテ議長指名四十五名ノ委員ニ付託セ
ラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 森下君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
四乃至第六へ便宜上一括議題トナスニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
四乃至第六へ便宜上一括議題トナスニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第四、石油專賣法案、日程第
五、交易營團法案、日程第六、燃料局特別會
計法案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ
マス——岸商工大臣

第四 石油專賣法案(政府提出)

第一 読會

第五 交易營團法案(政府提出)

第一 読會

第六 燃料局特別會計法案(政府提出)

第一 読會

石油專賣法案

第一條 政府ハ石油ノ專賣權ヲ有ス

第二條 本法ニ於テ石油トヘ揮發油、燈
油、輕油、機械油、重油、石油副製品及
此等ノ類似品ニシテ勅令ヲ以テ定ム
モノヲ謂フ

第三條 石油ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケ
タル者ニ非ザレバ之ヲ輸入シ若ハ移入
シ又ハ輸出シ若ハ移出スルコトヲ得ズ
第四條 石油ノ製造ヲ爲サントスル者ハ
命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ届出ヅベ
シ其ノ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同
ジ

第五條 前條ノ規定ニ依リ石油ノ製造ヲ
爲ス旨ノ届出ヲ爲シタル者(以下石油
製造者ト稱ス)ノ製造シタル石油ヘ政
府之ヲ收納ス

第六條 政府ハ收納スル石油ノ規格ヲ定
ムルコトヲ得

前項ノ規格ニ適合セザル石油ニ付テハ
政府ハ適當ナル處理ヲ爲スベキ旨ヲ命
ズルコトヲ得

第七條 政府ハ收納シタル石油ニ對シ賠
償金ヲ交付ス

賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示ス

第八條 石油製造者ハ其ノ製造シタル石
油ヲ總テ政府ニ納付スベシ但シ命令ヲ

以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコト
ヲ得

第九條 政府ハ其ノ賣渡ス石油ノ價格ヲ
定メ之ヲ公示スベシ

第十條 輸出、移出其ノ他命令ヲ以テ定
ムル用途ニ供スル場合ニ於テハ政府ハ
前條ノ價格ニ拘ラズ特ニ定メタル價格
ヲ以テ石油ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

第十一條 前條第一項ノ規定ニ依リ買受
タール賣捌人(以下石油賣捌人ト稱ス)ニ
非ザレバ之ヲ業トシテ賣渡スコトヲ得ズ
石油賣捌人及石油ノ賣渡ニ關スル規定
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ第
九條ノ價格ヨリ低キ價格ヲ以テ石油ヲ
買受ケタル者之ヲ讓渡シ、質入シ又ハ
其ノ用途ヲ變更スルコトヲ得ズ但シ政
府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在
ラズ

第十三條 石油ハ政府ノ賣渡シタルモノ
ニ非ザレバ之ヲ所有シ、所持シ、讓渡
シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ズ但
シ石油製造者納付期日前若ハ正當ノ事
由ニ因リ納付ノ遲延シタル場合ニ於テ
所有若ハ所持シ又ハ第八條第一項但書
ノ場合ニ於テ所有シ、所持シ若ハ消費
スルハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 石油賣捌人ハ政府ノ定ムル價
格ヲ超エテ石油ヲ賣渡スコトヲ得ズ
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 石油ハ政府ノ賣渡シタルモノ
ニ非ザレバ之ヲ所有シ、所持シ、讓渡
シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ズ但
シ石油製造者納付期日前若ハ正當ノ事
由ニ因リ納付ノ遲延シタル場合ニ於テ
所有若ハ所持シ又ハ第八條第一項但書
ノ場合ニ於テ所有シ、所持シ若ハ消費
スルハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 石油製造者、石油賣捌人及第
十條第一項ノ規定ニ依リ石油ヲ買受ケ
タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ石油ノ
製造、納付、賣渡又ハ使用ニ關スル事

第十七條 當該官吏ハ石油製造者、石油
賣捌人又ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ
算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金

額ヲ納付セシム
買受人前項ノ金額ヲ納付セザル場合ニ
於テ第十條第二項ノ規定ニ依リ提供シ
タル擔保アルトキハ之ヲ以テ納付セ
シムベキ金額ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔
保ハ之ヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及前項
ムル用途ニ供スル場合ニ於テハ政府ハ
前條ノ價格ニ拘ラズ特ニ定メタル價格
ヲ以テ石油ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

第十八條 當該官吏ハ石油賣捌人トキハ之
ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコト
ヲ得

第十九條 當該官吏ハ石油賣捌人トキハ之
ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコト
ヲ得

第二十條 當該官吏ハ石油賣捌人トキハ之
ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコト
ヲ得

第二十一條 當該官吏ハ石油賣捌人トキハ之
ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコト
ヲ得

第二十二條 當該官吏ハ石油賣捌人トキハ之
ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコト
ヲ得

第二十三條 當該官吏ハ石油賣捌人トキハ之
ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコト
ヲ得

石油ヲ買受ケタル者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲タル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 石油製造者、石油賣捌人又ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ石油ヲ買受ケタル者ノ所持スル石油

二 石油ノ製造、納付、賣渡又ハ使用ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 石油ノ製造、賣渡又ハ使用上必要ナル建築物、機械、器具、容器、材料其ノ他ノ物件

第十八條 本法ニ依リ納付セシムベキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ準用ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シ石油ノ輸入若ハ移入又ハ輸出若ハ移出ヲ爲シタル者

二 第八條又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シ政府ニ納付スベキ石油ヲ讓渡シ、消費シ又ハ隠匿シタル者

三 第十一條ノ規定ニ違反シ石油ヲ讓渡シ、質入シ又ハ其ノ用途ヲ變更シタル者

第二十條 第十四條ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル價格ヲ超エテ石油ヲ賣渡シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條第一項ノ規定ニ違反シ石油ヲ賣渡シタル者

二 第十五條ノ規定ニ違反シ政府ノ賣渡サザル石油ヲ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費シタル者

三 第二十二條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第二十三條 第四條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サズシテ石油ノ製造ヲ爲シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ事由ナクシテ第六條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ命令シタル處理ヲ爲サザル者

二 正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ石油ヲ納付セザル者

三 第十六條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ爲サズ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタル者

四 第十七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ、虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シタル者

五 第十九條乃至第二十一條又

ハ第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者アルキハ其ノ犯罪ニ係ル石油及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス其ノ石油又ハ容器ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十三條ノ規定ハ第一項ノ期間内同項ニ掲グ者ニ之ヲ適用セズ

第三十一條 本法施行ノ際現ニ業トシテ石油ノ賣渡ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ賣渡ヲ繼續セントスルモノハ本法施行ノ日ヨリ二月以内ニ石油賣捌人ノ指定ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタル者ハ之ヲ石油賣捌人ト看做ス同項ニ掲タル者同項ノ規定ニ依ル指定ヲ受ケザル場合ト雖モ同項ノ期間内ニ於テハ亦同ジ

第二十三條 第二十四條又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フベキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 石油製造者石油ノ製造ヲ廢止スルモ製造場又ハ貯置場ニ石油ノ現存スル間ハ仍本法ヲ適用ス

附 則

第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條ノ規定ヘ前項ノ規定ニ依リ政府ニ納付スル石油ニ之ヲ準用ス

第三十三條 石油製造者以外ノ者ガ本法施行ノ際現ニ所有スル石油ニ付テハ第十五條ノ規定ヲ適用セズ

第三十四條 挥發油及アルコール混用法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本

第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル者ハ第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者アルキハ其ノ犯罪ニ係ル石油及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス其ノ石油又ハ容器ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十五條 指揮發油稅法ハ之ヲ廢止ス但シ左ニ掲タル指揮發油ニ付テハ仍同法ニ依ル

一 本法施行前ニ指揮發油稅ヲ課シ又ハ課スベカリシモノ

二 指揮發油稅法第七條ノ規定ニ依リ本法施行前ニ製造場又ハ保税地域ヨリ引取りタルモノ

三 本法施行前ニ外國輸出又ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保税地域ヨリ引取りタルモノ

第三十六條 石油業法中左ノ通改正ス但シ本法施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル「石油輸入業」ヲ「原油輸入業」ニ、「石油輸入業者」ヲ「原油輸入業者」ニ改ム

第四條第一項中「石油ノ輸入」ヲ「原油ノ輸入」ニ、「精製ニ必要ナル石油」ヲ「精製ニ必要ナル原油」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第五條中「石油ヲ」ヲ「原油ヲ」ニ改ム第六條中「所有スル石油」ヲ「所有スル原油」ニ改ム

第七條第一項中「石油ノ販賣價格」ヲ「原油ノ販賣價格」ニ改ム

第三十七條 人造石油製造事業法中左ノ通改正ス但シ本法施行前ニ爲シタル行為ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

ノ規定ニ依ル

第九條 削除

第十六條第一項ヲ削ル

第十八條 削除

第二十二條 人造石油製造會社第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ

違反シタルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監查役ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 政府ハ二億五千萬圓ヲ交易營團ニ出資スベシ

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

政府ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ交易營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以内ニ出資證券ヲ交易營團ニ

提出スペキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

第七條 交易營團ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ交易營團ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

本法ノ重要物資ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 出資者ハ交易營團ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第九條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ交易營團ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者が拂込ヲ爲サザルトキハ交易營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

第十條 交易營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

三 事務所ノ所在地

四 資本金額、出資及資產ニ關スル事項

五 役員ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 會計ニ關スル事項

八 公告ノ方法

定款ハ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

出資者ニ拂戻スコトヲ要ス

コトヲ得

持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ満タザル場合ニ於テハ交易營團ハ從前ノ出資者ニ對シ不足額ノ辨済ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ交易營團が損害賠償及定款ヲ以テ定ムル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨げズ

前三項ノ規定ハ交易營團が損害賠償及定款ヲ以テ定ムル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ交易營團が損害賠償及定款ヲ以テ定ムル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ得

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ交易營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以内ニ出資證券ヲ交易營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ交易營團ハ遲滞ナク失效シタル出資證券ノ番號並ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ交易營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以内ニ出資證券ヲ交易營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ交易營團ハ遲滞ナク失效シタル出資證券ノ番號並ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ交易營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以内ニ出資證券ヲ交易營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ交易營團ハ遲滞ナク失效シタル出資證券ノ番號並ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條 交易營團ハ勅令ノ定ムル所ニ
依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登
記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對
抗スルコトヲ得ズ

第十二條 交易營團ニハ營業税ヲ課セズ
第十三條 交易營團ニ付解散ヲ必要トス
ル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置
ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 交易營團ニ非ザル者ハ交易營
團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコト
ヲ得ズ

第十五條 民法第四十四條、第五十條、
第五十四條及第五十七條並ニ非訟事件
手續法第三十五條第一項ノ規定ハ交易
營團ニ之ヲ準用ス

第二章 職員

第十六條 交易營團ニ役員トシテ總裁一
人、副總裁二人、理事五人以上、監事
三人以上及評議員若干人ヲ置ク

總裁ハ交易營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總
理ス

副總裁ハ定款ノ定ムル所ニ依リ交易營
團ヲ代表シ總裁ヲ輔佐シテ交易營團ノ
業務ヲ掌理シ總裁事故アルトキハ其ノ
職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職
務ヲ行フ

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ交易營團
ヲ代表シ總裁及副總裁ヲ輔佐シテ交易
營團ノ業務ヲ掌理シ總裁及副總裁共ニ

事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁
及副總裁共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ
行フ

監事ハ交易營團ノ業務ヲ監査ス

評議員ハ交易營團ノ業務ニ關スル重要
事項ニ付總裁ノ諸問ニ應ジ又ハ總裁ニ
對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第十七條 總裁、副總裁、理事、監事及
評議員ハ政府之ヲ命ズ

總裁、副總裁及理事ノ任期ハ三年、監
事及評議員ノ任期ハ二年トス

第十八條 總裁、副總裁及理事ハ定款ノ
定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ
關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ
爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコ
トヲ得

第十九條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職
業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認
可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 交易營團ノ役員其ノ他ノ職員
ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員
ト看做ス

第三章 業務

第二十一條 交易營團ハ左ノ業務ヲ行フ
一 物資ノ輸出及輸入並ニ之ニ伴フ當
該物資ノ買入及賣渡

二 重要物資ノ保有、買入及賣渡

三 前二號ノ業務ニ附帶スル業務

交易營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ業
務ノ外交易營團ノ目的達成上必要ナル
業務ニ關シ重要物資ヲ所有者ハ保管ス

業務ヲ行フコトヲ得

第一項第一號ノ輸出及輸入ノ業務ノ範
圍ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之
ヲ定ム

交易營團ハ第一項第一號及第二號ノ業
務ニ付テハ政府ノ定ムル計畫ニ依リテ
之ヲ行フベシ

第二十二條 交易營團ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ契約ニ依リ法
人其ノ他ノ團體ヲシテ前條第一項ノ業
務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

前條第四項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依
リ法人其ノ他ノ團體ガ同條第一項ノ業務
ヲ取扱フ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ同項ノ法人其ノ他
ノ團體ガ同項ノ業務ヲ行フ場合ニ於テ
ハ同項ノ法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ
使人ニシテ同項ノ業務ニ從事スルモ
ノハ之ヲ交易營團ノ當該業務ニ從事ス
ル職員ト看做ス

第四章 會計

第二十五條 交易營團ノ事業年度ハ毎年
四月ヨリ翌年三月迄トス

第二十六條 交易營團ハ設立ノ時及毎事
業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照
表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之
ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第五章 監督及補助

第二十七條 交易營團ハ政府之ヲ監督ス
第二十八條 交易營團ハ業務開始ノ際業
務ノ方法ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ
之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十九條 交易營團借入金ヲ爲サント
スルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十條 交易營團剩餘金ノ處分ヲ爲サ
ントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十一條 交易營團ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ剩餘金中ヨリ準備金ノ積立ヲ爲

スペシ

第三十二條 交易營團ノ每事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ガ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スペシ但シ其ノ額ハ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル事業年度ニ於テ支拂ヒタル額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

毎事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額及第二十一條第一項第二號ノ業務ノ爲借入レタル借入金ノ利息ニシテ當該事業年度ニ於テ支拂ヒタル額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十二條 交易營團ノ每事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スペシ但シ其ノ額ハ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル事業年度ニ於テ支拂ヒタル額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十二條 交易營團ノ每事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スペシ但シ其ノ額ハ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル事業年度ニ於テ支拂ヒタル額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

交易營團ハ毎事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ガ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザル場合ニ於

テ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ其ノ超過金額ヲ政府ニ配當スペシ

第三十四條 交易營團ガ第三十二條第一項ノ規定ニ依リ受クル補給金ハ法人稅法ニ依ル所得及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ

第三十五條 政府ハ交易營團ニ對シ第二十一條第一項第一號ノ輸出及輸入ニ伴フ價格差損ヲ補償スル爲價格差損補償

第三十六條 政府ハ交易營團ニ對シ業務ノ價格差損ヲ補償スル爲價格差損補償

第三十七條 政府ハ交易營團ニ對シ業務ノ價格差損ヲ決定スル基準ハ政府之ヲ定ム

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 人又ハ法人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ人又ハ法人ノ業務ニ關シ前條第一號又ハ第二號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ人又ハ法人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十條 第三十八條第一號及第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 左ノ場合ニ於テハ交易營團ノ總裁、副總裁、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十二條 第二十二條第一項ノ規定ニ依リ交易營團ノ業務ノ一部ヲ取扱フ法

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ交易營團ノ總裁、副總裁、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十四條 第十四條ノ規定ニ違反シ交易營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタ

第四十五條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ

第六章 罰則

トキ

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ事由ナクシテ第二十三條第一項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲サザル者ヲ行ヒタルトキ

二 第二十四條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

三 第二十一條第四項ノ規定ニ違反シ人其ノ他ノ團體同條第二項ノ規定ニ違反シ政府ノ定ムル計畫ニ依ラズシテ業務ヲ取扱ヒタルトキハ當該法人其ノ他ノ團體ノ役員ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

四 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第五章 懲罰

第三十九條 第二十一條第四項ノ規定ニ違反シ交易營團ノ業務ノ一部ヲ取扱フ法

第四十條 第二十一條第四項ノ規定ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

第四十一條 第二十一條第四項ノ規定ニ違反シ交易營團ノ業務ノ一部ヲ取扱フ法

第四十二條 第二十一條第四項ノ規定ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

第四十三條 第二十一條第四項ノ規定ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

第四十四條 第二十一條第四項ノ規定ニ違反シ交易營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタ

第四十五條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ

付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 重要物資管理營團法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第四十七條 政府ハ設立委員ヲ命ジ交易營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十八條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十九條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク一億三千萬圓ノ出資ノ引受ヲ政府ニ稟請シ且總出資ヨリ重要物資管理營團ノ出資ニ引當ツベキ出資及政府ニ割當ツベキ出資ヲ控除シ

第五十條 設立委員ハ前條ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ政府ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク重要物資管理營團ノ出資ニ引當ツベキ出資以外ノ出資ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムコトヲ要ス

第五十一條 前條第二項ノ拂込完了シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ交易營團總裁ニ引繼グベシ

總裁前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

交易營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ

成立ス

第五十二條 交易營團ノ成立ニ依リ重要物資管理營團ハ之ニ吸收セラルモノトシ重要物資管理營團ノ權利義務ハ交易營團ニ於テ之ヲ承繼ス

第五十三條 本法ニ規定スルモノノ外交易營團ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「重要物資管理營團」ヲ「交易營團」ニ、「重要物資管理營團法」ヲ「交易營團法」ニ改ム

第五十五條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第六號ノ六ヲ左ノ如ク改ム

六ノ六 交易營團ノ發スル出資證券

第五十六條 燃料局特別會計法

第五十七條 燃料局特別會計法

第五十八條 燃料局特別會計法

第五十九條 燃料局特別會計法

第六十條 燃料局特別會計法

第六十一條 燃料局特別會計法

第六十二條 燃料局特別會計法

第六十三條 燃料局特別會計法

第六十四條 燃料局特別會計法

第六十五條 燃料局特別會計法

第六十六條 燃料局特別會計法

第六十七條 燃料局特別會計法

第六十八條 燃料局特別會計法

第六十九條 燃料局特別會計法

現在ノ燃料局酒精部据置運轉資本ヲ以テ之ニ充テ尙必要ニ應ジ一般會計ヨリ漸次繰入シテ五千萬圓トス

第三條 本會計ノ据置運轉資本ニ不足ヲ生ジタルトキハ大藏大臣ハ借入金ヲ爲シ一時之ヲ補足スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ六千萬圓ヲ超過スルコトヲ得ズ前項ノ借入金ハ遲クトモ翌年度ニ於テ之ヲ償還スベシ

大藏大臣ハ第一項ノ借入金ニ代ヘ當該年度内ニ限り國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得

第四條 本會計ノ歲出額ハ其ノ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得

第五條 固定資本ノ維持、修理及補充ハ本會計ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スベシ

第六條 本會計ニ於ケル事業ノ益金及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ之ヲ置運轉資本ヲ置キ事業上ノ收入及附属運輸資本ヲ以テ之ヲ支辨スベシ

第七條 政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第八條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス但シ燃料局酒精部特別會計ニ關シハ昭和十七年度分ニ限り第十三條及

第十條 燃料局ニ於テ爲スブタノール及アセトンノ製造ニ關スル事業ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲアルコール及石油ノ專賣事業ト看做ス

第十一條 昭和十七年度ニ於テ燃料局酒

精部特別會計ニ於テ賣拂ヒタルアルコールノ代價ノ内翌年度納付ノ許可アリタルモノハ之ヲ本會計ニ於テ其ノ歲入ニ

第十二條 燃料局酒精部特別會計ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ノ收入及支出ノ未濟額トス

昭和十七年度燃料局酒精部特別會計ノ歲出豫算中翌年度ニ繰越フ要スルモノハ之ヲ本會計ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第六條 本會計ニ於ケル事業ノ益金及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ之ヲ置運轉資本ヲ置キ事業上ノ收入及附属運輸資本ヲ以テ之ヲ支辨スベシ

第七條 政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第八條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ昭和十八年度ヨリ之ヲ施行ス但シ燃料局酒精部特別會計ニ關シハ昭和十七年度分ニ限り第十三條及

第十條 燃料局ニ於テ爲スブタノール及アセトンノ製造ニ關スル事業ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲアルコール及石油ノ專賣事業ト看做ス

第十一條 昭和十七年度ニ於テ燃料局酒

精部特別會計ニ於テ賣拂ヒタルアルコールノ代價ノ内翌年度納付ノ許可アリタルモノハ之ヲ本會計ニ於テ其ノ歲入ニ

第十二條 燃料局酒精部特別會計ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ノ收入及支出ノ未濟額トス

第十三條 作業會計法中左ノ通改正ス

第一條 中「第五 燃料局酒精部」ヲ削ル

第二條第六項ヲ削ル

第三條 作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中「第五 燃料局酒精部」ヲ削ル

第三條 作業會計法中左ノ通改正ス

第十條 燃料局ニ於テ爲スブタノール及アセトンノ製造ニ關スル事業ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲアルコール及石油ノ專賣事業ト看做ス

第十一條 昭和十七年度ニ於テ燃料局酒

精部特別會計ニ於テ賣拂ヒタルアルコールノ代價ノ内翌年度納付ノ許可アリタルモノハ之ヲ本會計ニ於テ其ノ歲入ニ

第十二條 燃料局酒精部特別會計ニ屬スル收入及支出ノ未濟額ハ之ヲ本會計ノ收入及支出ノ未濟額トス

第十三條 作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中「第五 燃料局酒精部」ヲ削ル

第二條第六項ヲ削ル

第三條 作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中「第五 燃料局酒精部」ヲ削ル

第三條 作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中「第五 燃料局酒精部」ヲ削ル

給統制乃至消費規正等ヲ一段ト強化致シ、概ニ今日マデノ戰時經濟ノ運行ニ對處致シテ參ツタ次ニデアリマスガ、大東亜戰爭勃發以來、戰局ト共ニ石油需給ハ頓ミニ緊要ノ度ヲ加ヘ、石油ノ確保ト是ガ徹底のノ高度重點配給トガ、時局下益々必要トナツテ來タノデアリマス、從來ノ石油配給制ニ於キマシテハ、政府ハ石油ノ現物ハ擧ゲテ之ヲ民間機關ニ委ネ、唯之ニ對シ配給上ノ指示監督等ヲナシ居リマシタ關係ニ止マリ、其ノ爲メ配給ヲ指示致シマスル主體ト、現物ヲ所持シ之ヲ實際ニ配給致シマスル主體トガ、二元的ニ分レテ居リマスコトヨリ生ジマスル不都合ガ痛感セラレテ參ツタ次第デアリマス、是ニ於キマシテ石油ノ重點配給ヲ行ヒマスルガ爲ニハ、政府自カラ石油ノ現物ヲ把握致シ、自ラ其ノ配分ノ衝ニ當ルコトヲ必要ト認メマシテ、茲ニ今次戰爭ニ對處スル戰時中ノ臨時措置トシテ、石油ノ專賣制ヲ創設スルコトトナリ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス

ノ交易ノ實施ニ付キマシテ、此ノ諸障碍ヲ調整スルト共ニ、財政的負擔ヲ極力輕減シツツ、計畫交易ヲ強力ニ遂行セネバナラナイノデアリマス、而シテ是ガ爲ニハ各地域ニ亘リ、各輸出及ビ輸入物資ヲ有機的且ツ一元的ニ操作スルコトガ、絶對緊要ト認メラレルノデアリマス、併シナガラ現在ノ多元的交易統制機構及ビ間接的統制方法ヲ以テ致シマシテハ、其ノ目的ヲ十分ニ達成スルコトガ出來ナイト存ゼラルノデアリマス、茲ニ交易營團ヲ設置致シマシテ、交易ノ統制運營ノ一元的中樞機關トシテ、其ノ責任ニ於テ計畫交易ノ迅速且ツ的確ナル遂行ヲナサシメントスル次第アリマス

ヲ提出致シタ次第アリマス
以上ヲ以チマンシテ三法案ノ提案理由ニ關
スル御説明ヲ終リマスルガ、何卒御審議ノ
上速カニ御協賛アランコトヲ希望致ス次第
デアリマス（拍手）
○議長（岡田忠彦君）　御質疑ノ通告ガアリ
マス、順次之ヲ許シマス——野田武夫君
（野田武夫君登壇）
○野田武夫君　私ハ只今上程サレマシタ石油
專賣法案ニ關シ、政府ノ御所見ヲ質シタ
イト思ヒマス、近代戦ガ科學戰テアリマス
以上、一面石油戰デアルト言ツテモ、必ズ
シモ過言デハナインデアリマス、隨テ此ノ
石油行政ニ付キマシテハ、政府トシテハ深
甚ナル考慮ヲ拂フベキダト思ヒマス、只今
政府ノ提案ノ理由ノ御説明ヲ承ツテ居リマ
スト、本法ハ石油ノ高度ノ重點配給ヲナス
ガ爲ニ、特ニ戰時臨時措置法デアルト云フ
御説明デアリマスルガ、石油ハ獨リ國防上
バカリデハナク、產業上ノ重要ナル基本資
材デアリマス、隨テ戰後ト雖モ當然石油ハ
高度ノ重點配給ヲナスベキモノノデアリマシ
テ、本法ヲ單ニ戰時臨時立法トナサルコト
ハ、徒ラニ石油ノ產業部門ニ對シ昏迷ニ陷
レルノデアリマシテ、其ノ理由極メテ不明
確ナルモノト私ハ思ヒマス、如何ナル御考
ヘニ依ツテ臨時措置法トナサレマスカ承リ
タイト存ジマス

複雜多岐デアリマシテ、煙草ヤ鹽ト異ナリ
シ難イノデゴザイマス、殊ニ滿洲國ニ於キ
マシテ、既ニ石油專賣ヲ實施致シテ居リマ
スガ、其ノ結果ハ必ズシモ豫期ノ成果ヲ收
メテ居リマセヌ、今回敢テ政府ガ專賣法ヲ收
實施セラルニ至ツタ其ノ根本ノ理由ト目
的ヲ、明示シテ戴キタイト恩ヒマス

次ニ政府ハ重要產業部門ニ於キマシテハ、
所謂民間ノ知識經驗創意ヲ結集スルト云フ
コトヲ明示シテ居ラレマス結果、各業種自
ニ幾多ノ統制會が出來テ居リマス、而モ此
ノ方針ノ下ニ統制經濟ヲ運用スルト云フ
コトヲ明示シテ居ラレマス結果、各業種自
ニ幾多ノ統制會ニ對シマシテハ、又幾多ノ重要ナ
ル權限ヲ委譲ナサツテ居ラレマスガ、石油
ノヤウナ重要ナル產業ニ對シマシテ、今日
マデ統制會ノ設立ヲ見ルニ至ラズ、而モ今
回飛躍的ニ專賣法ヲ御執リニナラナケレバ
テラナカツタ意味ハ何處ニアルカ、又一方
從來統制會が出來テ居ツタノヲ態、之ヲ壞シ
テ、同時ニ上程致シテ居リマスル所ノ交易
營團ノ如キヲ御作リニナツテ居リマスガ、
政府ハ即チ從來明示シテ居ラレル重要產業
部門ニ對スル統制會ノ運用理念、所謂統制會
經濟ノ運用ノ理念竝ニ方針ニ付キマシテ、
一貫性ヲ缺イテ居ラレルト思フノデアリマ
スガ、此ノ點如何ナル御所見デアリマスカ、
御伺ヒ致シタイト恩ヒマス、又假ニ戰爭ヲ
遂行スル上ニ於キマシテ、其ノ基本ノ資材

デアル重要性ニ鑑ミテ、專賣ヲ絕對必要ナリト致シマシタナラバ、政府ハ更ニ進ンデ他ノ重要物資デアリマス鐵トカ、石炭トカ、輕金屬ト云フヤウナ戰爭遂行上絶對不可缺ノ重要物資ニ對シマシテモ、同ジク專賣制ヲ實施ナサル意思アリヤ否ヤ、此ノ點ヲ御伺ヒシタイト思ヒマス

次ニ政府ハ、只今御説明モアリマシタ通り、民間ニハ既存ノ石油配給機關ガアリマス、此ノ民間ノ石油配給機關ヲドウ御取扱ニナル御積リデアリマスカ、今日中央ニハ石油配給統制株式會社、地方ニハ各府縣毎ニ府縣ノ石油販賣株式會社ガアリマスガ、是ハ即ち所謂政府ノ慾望ニ係ル所ノ國策會社デアリマス、然ルニ其ノ内容ヲ見マスト、中央地方ヲ通シマシテ此ノ配給部門ニ携ツテ居ル所ノ從業員ハ約千七、八百名アリマスガ、其ノ四分ノ一強ハ重役ガ占メテ居リマス、而モ此ノ從業員ノ全體ノ人件費ヲ見テミマスルト、約二百八十餘万圓デアリマスガ、其ノ内三分ノ一強ノ百万圓ハ、重役ノ報酬トナツテ居リマス、此ノ點カラ見マスレバ、如何ニ民間ノ所謂國策會社ノ配給機關ガ其ノ經營ニ於テモ、運用ニ於テモ、不合理ナルモノガアルカト云フコトハ明カデアリマス（拍手）若シ之ヲ利用ナサルト致シマシタナラバ、此ノ際之ヲ一元的ニスルトカ、或ハ其ノ他ノ機構竝ニ運營ニ當リマシテ、一大刷新ヲ加ヘル必要ガアルト思ヒマスルガ、政府ノ御考ヘ方ハ如何デゴザイマスカ

次ニ御伺ヒ致シタイト思ヒマスルコトヘ、本法實施ニ當リマシテハ、將來精製部門ニ何等カノ變更ヲ加フル御考ヘハアリマセヌカ、即チ精製部門マデ專賣法ヲ擴大サレル御考ヘハアリマセヌカ、御尋ネ申上ダタイト思ヒマス

今日南方資源ノ把握ニ依リマシテ、民間ノ一部ニハ人造石油ヲ輕視スル傾向ガアリマスルコトヘ、私洵ニ遺憾ニ思フ一人デアリマス、將來大東亞共榮圈全體ノ石油ヲ、我が國ガ賄フト致シマシタナラバ、其ノ量ニ於テハ到底天然石油ノミニ依存スルコトヲ許シマセヌ（拍手）且ツ南方ノ原油ハ蠟分ノ含有量其ノ他ノ關係上、高級規格ノ製品ヲ得ル爲ニハ、ドウシテモ人造石油ノ技術ニ俟タネバナリマセヌ、又南方資源中「ゴム」トカ、油脂等ヨリスル潤滑油精製ニ至リマシテハ、何トシテモ高度ノ人造石油ノ技術ヲ必要ト致スノデアリマス、政府ハ去ル第七十議會ニ於キマシテ、人造石油製造事業法案竝ニ帝國燃料興業株式會社法案ヲ御出シニナリマシタ時ニ、私ガ本議場ニ於テ御質問申シマシタノニ對シテ、當時ノ商工大臣ハ、所謂人造石油七箇年計畫、即チ「ガソリン」ト重油ノ數量ヲ擧ゲテ確信アリト云ウテ七箇年計畫ヲ私ニ明示サレタノデアリマスガ、其ノ七箇年目ガ丁度今昭和十八年

ノ專賣納付益金トシテ六百二十二万四千圓ヲ、一般會計ニ計上サレテ居リマスルガ、大體平年度ノ納付益金ハ、ドノ位ノ御見込ニナツテ居リマスカ、而シテ此ノ專賣益金ノ使途ニ付テデアリマスガ、御承知ノ通り、日本ノ石油事業ト云フモノハ從來全ク「アメリカ」ノ石油ニ依存致シテ居リマシタ關係上、南方ノ原油ノ處理ニハ設備其ノ他ニ

豐富ナル南方原油ヲ迅速ニ、而モ效率的ニ處理シ増產スルコトガ、國家ノ要請トナツテ居リマスノデ、大藏省ト致シマシテハ此ノ石油專賣ニ依ル益金ヲ、單ニ財政收入ト云フ事務的ナ觀念ニ因ハレズ、我ガ國石油事業ノ特殊事情ニ鑑ミラレマシテ、專賣益金ハ優先的ニ無條件ニ、大東亞共榮圈内ニ於ケル石油ノ開發增產ニ振向ケラレマシテ、以テ燃料國策ノ大本ヲ確立サレルコトガ妥當ナリト信ジマスガ、政府ノ御所見ハ如何

第デゴザイマス、而シテ現在占領地區ニ於キマシテヘ、軍政上現段階ニ於テハ軍直接ノ御見透シハドウナツテ居リマスカ、茲ニ人造石油ノ振興策ニ對シテ、政府ハ如何ナカ、即チ精製部門マデ專賣法ヲ擴大サレル御方針ヲ持ツテ居ラレマスルカ、御尋ネ申上ダタイト思ヒマス

本專賣法ノ實施ニ伴ヒマシテ、十八年度ノ專賣納付益金トシテ六百二十二万四千圓ノ專賣納付益金ハ、ドノ位ノ御見込ニ付テ、其ノ他ニ於テマダ幾分缺クル所ガアリマス、此ノ際にテマダ幾分缺クル所ガアリマス、此ノ際にテ居リマスカ、即チ民需ニ指向ケル生産部門ニ付テモ、依然トシテ陸海軍ガ直接其ノ生産ニ當ラレルカドウカ、或ハ民間ノ企業體ヲ動員サレルカドウカ、又ハ營團ノ如キモノヲ御作リユナルカドウカ、既ニ今日當然成案ガアルベキモノト信ジマスガ、政府ノ御方針ハ如何デゴザイマスカ、御尋ネ申上ダタイト思ヒマス

最後ニ、今回官廳ノ割據主義ヲ打破シ、

産業行政ノ統一ヲ圖リ、以テ決戦下ノ飛躍

の增產ヲ圖ル爲ニ、鐵、石炭、輕金屬、航

空機、船舶ノ五種目ニ付キマシテ、總理大臣ニ對シ勅令及ビ法律ヲ以テ、行政上ノ特權ヲ付與スルコトニナツタノデアリマシテ、

ノデアリマスガ、是ハ極メテ妥當適切ナル措置ト私ハ思ヒマス、併シ右ニ擧ゲマシタ

重要物資ニ優ルトモ劣ラナイ所ノ石油ヲ、

此ノ品目カラ何故ニ除外シタカ、其ノ理由ヲ御明示願ヒタイ、現在ノ石油行政ヲ見マスルト、先ニ述ベマシタ通り、大東亞共榮圈

ノ占領地區ニ於キマシテハ、軍政上軍事接

ノ行政ヲ執ラレテ居ルコトハ當然トヘ思ヒ
マスガ、本專賣法ノ主タル對象トナルベキ
所ノ國內ノ生産部門ニ對シマシテ、或ハ商
工省、或ハ陸軍省、或ハ海軍省ト云フ如ク、
各別ニ行政ノ措置ヲ執ツテ居ラレルコト
ハ、生産ノ増強、生産ノ計劃性ノ確立、並ニ
此ノ專賣法ノ實施後ニ於ケル效果ノ萬全ヲ
期スル上ニ於テ、極メテ不合理ナル點ガ多
ミ、又先程ノ總理大臣ノ御方針ニ基イテモ
速カニ行政ヲ一元化シ、以テ生産ノ増強ニ
戰器ノ一部トモ云フベキ石油ノ重大性ニ鑑
ミ、又トヨ熱室シテ已マナイノデアリマス、之ニ
支障ナキヤウ、萬全ノ方途ヲ講ゼラレンコ
トヲ熱室シテ承リタイノデアリマ
對スル政府ノ御所見ヲ承リタイノデアリマ
ス（拍手）

以上ヲ以チマシテ、私ノ質問ヲ終リマ
ス、何率率直ナル御答辯ヲ御願ヒ致シマス
（拍手）

○國務大臣岸信介君登壇】

〔國務大臣岸信介君〕 只今ノ野田君ノ御
質問中商工大臣ニ對スル御質問ニ付キマシ
テ御答辯申上ダマス、各種ノ問題ニ觸レテ
居リマスノデ、順次御答へ致シマスガ、其
ノ前ニ一言致シテ置キタイト思ヒマス
石油ノ問題ヘ、御質問ニモアリマシタ通
リ軍事上、產業上極メテ重大ナル問題デア
リ、而モ大東亞戰爭開始前ノ我が國ノ石油
ノ狀況ト、今日ノ石油狀況ト云フモノハ、

ヲ全然異ニ致シテ居ルノデアリマス、從來御承知ノ通り、石油ニ付キマシテハ、大部分ヲ敵國側ノ米國ノ供給ニ仰イデ居ツタ日本ノ實情ガ一變致シマシテ、將來大東亞共榮圈内ノ石油資源ノ開發ニ依リマシテ、大東亞共榮圈全體ノ自給對策ト云フモノヲ計畫シ得ル狀態ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ石油事情ニ付キマシテ、其ノ本質ヲ全然一變シタモノデアリマス、而モ將來軍事上及ビ産業上ノ需要ヲ考ヘマス時ニ、御意見ニモアリマシタ通り、唯單ニ南洋地域ノ資源ノ開發ノミヲ以テハ十分デナイ、質的ニモ量的ニモ、更ニ人造石油事業ノ生産擴充等ト相俟ツテ、完全ナル液體燃料ノ自給策ヲ講ジテ行クト云フコトノ必要ナ事柄ハ、只今御意見ノ通りデアルト思フノデアリマス、石油ノ事情ガ斯クノ如ク從來トハ全然其ノ趣ヲ異ニ致シテ居リマスルガ、現寶ノ問題カラ申シマスルト、一面戰爭遂行ノ爲ニ、各種軍需方面ニ於ケル需要ハ愈々増大シ、而モ重要產業部門ニ於ケル生產增强上必要ナ石油ヲ、其ノ方面ニ確保スル必要モ亦愈々重要ナモノガアルノデアリマス、斯ウ云フ必要ニ應ズル爲ニ、從來ノ不完全ナル統制機構ト云フモノヲ、更ニ強化致シマシテ、政府自ラ石油ノ現物ヲ把握シテ、此ノ配分ニ付テ、責任ヲ以テ最モ重點トスル部面ニ、必要ナ石油ガ的確ニ配給サレルト云フコトヲ確保スルガ爲ニハ、ドウシテモ政府自ラ專賣スルト云フ制度ヲ採ル外ナイノ

デアリマス、御質問ニアリマシタ如ク、石油ノ專賣ト云フコトニ付キマシテハ、色々ナ困難モアリ、固ヨリ煙草や鹽等ト達ツタ事情ガアリマスルケレドモ、現下ノ情勢ニ對應スル爲ニ、軍事上産業上ノ緊要ナル要求ニ的確ニ應ズルト云ク爲ニハ、此ノ制度ヲ採ル必要ガ強ク要請セラル所以デアリマス、然ラバ之ヲ臨時措置法トナシタル理由如何ト云フ問題デアリマスルガ、將來南方地域ノ石油ガ十分ニ開發セラレ、又東亞共榮圈全體ニ關スル石油ノ配給機構ヲ、帝國ヲ中樞トシテ綜合的ニ立チルト云フ必要ベ、固ヨリ私共痛感致シテ居リマスルガ、是ハ今日ノ段階ニ於キマシテハ、南方諸地域ヘ御承知ノ通リ、軍政治下ニアリマシテ、軍政ノ下ニ於テ石油ガ開發サレテ居ルト云フ實情等モ考慮致シテ見マスルト、將來此ノ綜合的ナ石油政策ヲ、ドウ云フ形デ立チルカト云フ問題ヘ、將來ノ時期ニ於キマシテ是ハ考究サレナケレバナラナイ、現下戦争遂行ノ途上ニ於キマシテ、兎ニ角戦争ノ要求ト産業上ノ要求トニ應ジテ行カナケレバナラナイト云フ必要ヲ満シテ參リマス爲ニハ、今日ノ實情ニ基イタ専賣制度ヲ布ク必要ガアル、將來ノ問題ヘ將來ノ問題トシテ、更ニ考究ノ要ガアルト考ヘルノデアリマス

スルト云フ事柄ヘ、統制ニ關スル理念方針ニ付テ、一貫性ヲ缺クモノデハナイカト云フ御話テアリマス、政府ガ曩ニ重要産業整備令ニ基イテ、統制會ノ制度ヲ定メマシテ、之ヲ各重要産業部門ニ實施致シテ居リマスルガ、是ニ御質問モアリシタ通り、爰簡ノ創意ト其ノ責任トヲ全面的に活用シテ、サウシテ當該産業ニ於ケル生産擴充ノ實ヲ舉ゲルト云フコトガ、其ノ目標デアリマス、併シナガラ其ノ根本ノ考へ方ニ於キマシテハ、總テノ產業ニ付キマシテ、政府ハ同様ノ考ヘヲ持ツテ居リマス、唯其ノ形式ガ如何ナアル形ヲ取ルベキカニ付キマシテハ、各種ノ產業ニ付キマシテ、ソレド^ル特殊ノ事由モアリマス、特ニ配給ノ如キ仕事ニ至リマスト、今マデノ統制會運用ノ實績ニ顧ミテ見マシテモ、現物ヲ眞ニ把握シテ是ガ配給ノ適正ヲ期スルト云フガ爲ニハ、統制會ノ方式ヨリモ、更ニ進ンダ形ヲ考ヘナケレバナラナイモノモ少クナインデアリマス、石油ノ配給ノ適正、最重要配給ト云フ實ヲ確保スルガ爲ニ、統制會ノ形ニ依ラズシテ專賣ノ形ヲ取リマシタノモ、サウ云フ理由デアリマス、隨ヒマシテ御質問ニモアリマシタ鑄、石炭、輕金屬等ニ付チ專賣制ヲ布ク意思ガアルカト云フ御尋ねデアリマシタガ、政府ハ是等ノ物資ニ付キマシテ、專賣制ヲ布ク意思ヲ持ツテ居リマセヌ、是等ノ物資ニ付キマシテハ、統制會ノ制度ヲ全幅的ニ活用致シマシテ、其ノ生產増強ノ實ヲ確保シテ參リタ

イ考へデアリマス
次ニ本專賣制度ト民間配給機構トノ關係ニ關スル御質問デアリマス、本專賣制度實施ノ後ニ於キマシテモ、既存ノ民間機構へ、極力之ヲ活用スル方針デアリマス、即チ輸出入ニ付キマシテハ、本專賣法中、政府又へ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ限ツテ輸移出

入ガ出來ルト云フコトニナツテ居リマスルガ、實際政府ハ自ラ輸移出入ノ實務ヲナスガ如キ事柄ヘ、殆ド之ヲ考ヘテ居ラナイノデアリマシテ、既存ノ民間業者ヲ全面的ニ活用シテ、是等ノ實務ニ當ラシムル考ヘデアリマス、又國內配給業務ニ付キマシテハ、既存ノ配給業者ヲ賣捌人等ニ指定スル方法ニ依リマシテ、其ノ石油配給上ノ技術、知識乃至經驗ト云フモノヲ、全面的ニ活用シテ参りタイト存ジマス、唯現在ノ民間配給機構ノ實情ガ、十分ニ其ノ使命ヲ達成セシムルノニ適當デアルカドウカ、其ノ制度ニ大刷新ヲ加フルベキモノガアルデハナイカト云フ御尋ネデアリマスルガ、今日ノ石油販賣機構へ、永年ノ多數ノ石油販賣業者ヲ

地方的ニ整理統合致シマシテ、更ニ之ヲ中央ニ於テ統制スル形ヲ執ツテ參ツタノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ整理統合ノ途上、又國内配給業者ヲ賣捌人等ニ付キマシテ、從來ノ關係等モアリマシテ、是ガ最モ合理的ナル形ニ整理統合サレテ居ラナイ部分モ少クナインデアリマス、是等ニ關シマシテハ、從來モサウデアリマシテガ、今後ニ於キマシテモ十分ニ監督指導

ヲ致シマシテ、配給業者ノ使命ヲ完全ニ達スルニ必要ナヤウナ改善ヲ加ヘテ參リタイト存ジマス
次ニ本專賣ハ販賣專賣ナルガ、更ニ精製部門ニ對スル製造專賣マテ行ク必要ハナカト云フ御尋ネデアリマス、此ノ點ニ關シマシテハ、現在政府ハ先刻來申上ダシタヤウナ、此ノ戰時下ニ於ケル最モ緊要ナル石油ノ需給ノ調整、最重要點の所ニ必要量ノ配給ヲ確保スルト云フ所ヲ狙ツテ居リマスノデ、今日ノ所精製部門ニマデ專賣制度ヲ擴張スル意思ハ持ツテ居ラナイノデアリマス、次ニ人造石油ノ問題ニ關スル御質問デアリマシタガ、人造石油ノ問題ハ御說ノ通り、今後ニ於キマシテモ非常ナ重要性ヲ持ツテ居ルモノデアリマス、決シテ南方石油資源ノ確保ニ依リ、又是ガ開發ニ依ツテ人造石油問題ノ意義ヲ輕カラシメル所ハナイノデアリマス、而シテ政府ハ過去ニ於キマシテ、人造石油ノ事業ノ確立並ニ其ノ生産擴充ノ爲ニ計畫ヲ定メマシテ、爾來今日マニテ官民一致シテ、人造石油事業ノ確立ニ努メテ參ツテ居リマス、唯御承知ノ通り、此ノ人造石油ノ問題ハ技術的ニモ、或ハ設備ノ上カラ申シマシテモ、色々ナ困難ノアル事業デゴザイマシテ、之ニ對シマシテハ政府ハ凡ニ爾面カラ、財政的ニモ、技術的ニ於キマシテ、從來ノ關係等モアリマシテ、是等ニ關シマシテハ、從來モサウデアリマシテガ、今後ニ於キマシテモ十分ニ監督指導

シテモ恐ラク人造石油、天然石油及ビ國ノ内
外ヲ通ジマシタナラバ、專賣益金ヨリ遙カ
ニ大キナモノヲ支出致シテ居ル現狀ト存ジ
マスル次第アリマス(拍手)
○議長(岡田忠彦君) 他ニ答辯アリマセヌ
カ——ソレデハ三木武夫君
(三木武夫君登壇)
○三木武夫君 私ハ只今議題ト相成ツテ居
リマス交易營團法案ニ對シテ以下數點ノ質
疑ヲ致シタイト存ジマス
先づ政府ハ大東亞共榮圈内ニ於ケル物資
ノ交流ニ對シ、具體的ニ如何ニシテ我ガ
國ノ指導力ヲ強化、確立スルノデアルカ、
又其ノ間ニ於ケル交易營團ノ果スベキ役割
如何ト云フ點ニ付テ御尋ネラ致シタインデアリ
アリマス、即チ共榮圈經濟へ、全體トシテ
有機的ニ統制サレタ一ツノ經濟統一體的性
格ヲ持ツモノデナケレバナラナイノデアリ
マシテ、雖テ圈内ニ於ケル物資ノ交流ヘ、
ソレガ日本ヲ對象トル場合ノミナラズ、
圈内各地域間ノ交流ニアツタ致シマシテ
モ、一ツノ物動計畫的物ノ動キヲシナケレ
バナラスト思フノデアリマス、隨テ端的ニ
言ヘバ、今日ニ於ケル東亞計畫交易ノ性格
ハ、一ツノ大東亞物動計畫ノ實行ニ外ナラ
スト思フノデアリマス、而モ其ノ計畫ノ根
柢ラナスマノハ、一面ニ於テ大東亞戰爭完

遂ノ爲ニ、大東亞ノ廣域ニ亘ツテ現ニ産出サ
レ、或ハ又急速ニ開發スルコトニ依ツテ、
ニ、又一面共榮圈ニ於ケル民生ノ安定ヲ
圖ルト云フ所ニ、其ノ基調ガ置カレナケ
レバナラヌト存ジマスノデアリマス、
而モ今日ノ如ク海上輸送力ト云フモノガ、
大イナル制約ヲ受ケテ居リマスル時代ニアツ
テ、物資交易ノ此ノ時代的要請ニ應ヘント
スル爲ニハ、大東亞ニ於ケル物資ノ交易ヘ、
我ガ國ノ強力ナル指導ノ下ニ、最モ合理的
ニ、最モ計畫的ニ、最モ能率的ニ運營サレ
ナケレバナラナイノデアツテ、一切ノ無駄
ハ許サレナインノデアル、政府モ此ノ點ニ關
シテハ屢々機會アル毎ニ、大東亞ノ貿易ハ皇
國ヲ樞軸トシテ、皇國ヲ指導者トシテ計畫交
易ノ迅速的確、且ツ強力ナル遂行ヲ期スル
旨ヲ強調サレテ居ルノデアリマス、併シナ
ガラ指導者ト云ヒ、樞軸ト申シマシテモ、
具體的運營ノ面ヲ通ジテ具體的方策ガ現ヘ
レナイ場合ヘ、一片ノ作文ニ終ルノ危険ナ
シトシナインノデアリマス、政府ハ大東亞ノ
交易ヲ總テ圓ニ依ル綜合決済制ヲ採ラレル
コトニ依ツテ——斯ウ言フ方式ヲ確立サ
レタ御努力ニ對シテハ敬意ヲ表シマスガ、
是トテモ物資ノ圓滑ナル交流ト云フ裏付ケ
ガナケレバ生キテ來ナインノデアツテ、是ノ
ミヲ以テ我ガ國ガ東亞ノ交易ニ對シテ、指
導的地位ヲ強化サレタトハ言ヘナイト思フ

ノデアリマス、若シ今回御提案ニ相成ツテ
居リマス交易營團ガ、大東亞交易ノ指導的
役割ヲ果スモノダト致シマスルナラバ、少
クトモ交易營團ノ業務ノ地域的範圍ト云フ
モノハ、大東亞共榮圈全域ニ及バナケレバ
ナラスト思フノデアリマス、寧ロ輜テハ大
東亞圈外ニモ、交易營團ノ業務ノ範圍ハ擴
大サレナケレバナラナイ、又取扱ノ物資ニ
致シマシテモ、大東亞ニ於ケル重要ナル交
易物資ノ總テヲ網羅シナケレバナラスト思
フノデアリマス、併シナガラ此ノ業務ノ地
域的範圍、或ハ物資ノ範圍ニ付テハ勅令ニ
委ネラレテ居リマスノデ、既ニ御成案モア
ルコトト存ジマスカラ、此ノ機會ニ御發表
ヲ願ヒタイト存ジャズ

更ニ重要ナ點ハ、日本ノ交易營團ニ結ビ
付ク所ノ現地機構ノ問題デアリマス、御承
知ノ如ク大東亞圈内ハ各地域ニ異ツタ行政
組織ヲ持チ、又各地ニバラ／＼ナ統制機構
ヲ持ツテ居リマスカラ、如何ニ日本ノ交易
機構ヲ整備シテモ、日本ノ交易營團ニ對應
スル現地ノ機構ヲ整備シナケレバ、交易ノ
計畫性ハ成立タナイト信ズルノデアリマス、
而モ大東亞ノ交易ハ、單ニ日本ニ對スル貿
易ノミナラズ、南方ト南方、或ハ南方ト大
陸、或ハ大陸相互間ノ總テノ交易ニ對シテ
モ、物動計畫的ナ眼カラ睨ミヲ利カサナイ
ルコトガ出來ルデアラウカ、私ハ何トシテ

モ日本ノ交易營團ト相呼應シテ活動スル現地機關ノ必要ヲ、絶對ニ感ジテ居ル一人アリマス、其ノ爲ニハ或ヘ現在バラニナツテ居ル現地ノ統制機關ヲ綜合シテ、日本ニ於ケル一ツノ統制會ノヤウナモノヲ作ルコトモ一方法デアリマセウ、或ヘ日本ノ交易營團的ノモノヲ各地ニ持ツコトモ一ツノ方法デアツテ、兎ニ角日本ノ資本ニ加ヘテ現地ニ於ケル土着資本ノ導入ヲモ許シテ、日本ガ企畫經理ノ部門ヲ受持ツト同時ニ、先方ハ收買、配給ト云フヤウナ實際的ナ部門ニ協力スルト云フ、日本ト現地トノ合作ニ依ル何等カノ現地機構ノ確立ト云フコトガ、絶對ニ必要ダト思フノデアリマス、若シモ斯カル急激ナ機構ノ整備ガ困難デアルトスルナラバ、セメテ交易營團ノ分團カ支店カヲ此ノ際東亞ノ各地域ニ御設置ニナル御用意ガナケレバナラスト思フノデアリマス、政府ハ此ノ日本ノ交易營團ニ對應スル、ドウ云フ現地機關ト云フモノヲ御想定ニナツテ居ルノカ、承リタイノデアリマス、若シモ交易營團ノ業務ノ範圍ガ、地域的ニモ物質的ニモ極メテ局限サレタモノデアルシ、又現地機構ニ對シテモダ御計畫外ニアルトスルナラバ、今回ノ交易營團ト云フモノハ、東亞全域ノ計畫交易ヲ強力ニ遂行セント言ハレル政府ノ日頃ノ御抱負トハ、甚ダシク懸ケ離レタモノデアリ、此ノ營團ノ運營ヲ通ジテ大東亞ノ物資交流ヲ、現作戰ノ段階要請ニ應ヘ得ルヤ否ヤ、甚ダ疑問ナキヲ得ナイノデアリマス、更ニ計畫交

易ノ前提ニハ、ドウシテモ大東亞共榮圈内ニ於ケル具體的產業立地計畫ガナケレバナリマセヌ、時局ハ大東亞共榮圈内ニ於ケル自給自足ト、國防國家體制ノ急速ナル確立ヲ緊急トシテ居リマスシ、又大東亞共榮圈内ノ諸地域ト云フモノガ、多年英米ノ植民地的擇取ノ下ニ置カレタ事實カラシマシテモ、此ノ際日本ハ產業ノ立地計畫ヲ樹テ、生産ノ最適分業ニ依リ、各地域ノ負フベキ使命ヲ分擔セシムルニアラザレバ、其ノ上ニ立ツ交易デナケレバ、戰爭經濟ノ要請ニ應ヘル計畫交易ト云フモノハ出來ナイト思フ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル處置ヲ講ジツツアルカ、以上ノ點ニ付テ承リタイノガ、私ノ質疑ノ一點アリマス。

次ハ大東亞共榮圈内ニ於ケル物價問題ト物資交流ノ關係、特ニ是ガ調整策ニ付テ承リタイノデアリマス、今日物價對策ノ確立ハ、大東亞經濟圈ニ於ケル最大ノ課題デアリ、物資交流ノ圓滑化ヲ圖ル爲ニモ、又圈内ニ於ケル民生ノ安定ヲ圖ル爲ニモ、早急ニ解決ヲ迫ラレテ居ル問題デアルノデアリマス、最近大陸ノ物價ガ非常ナル騰勢ノ途ヲ辿ツテ居ルト云フコトハ、諸君御承知ノ通り、數字ハ持ツテ居リマスルガ、省略ヲ致シマス、大東亞地域ハ各、獨立シタ通貨制度ヲ持チ、各、異ナツタル價格體形ト云フモノヲ持ツテ居ルカラ、全地域ニ通ズル綜合的一律ナ物價政策ト云フモノハ困難デアリマスケレドモ出來得ル限り綜合的ナ手ヲ打ツ

テ、物價水準ノ低下ヲ圖ラナケレバ、物資ノ交流ト云フモノガ圓滑ニ行ハレルモノデハナノデアリマス、而モ日本ノ戰爭條件ヲ擴充スル爲ニ、共榮圈各域ノ日本ニ對スル寄與ヲ一層強化セザルヲ得ナイ一面、日本ノ反對給付ヲ此ノ際多量ニ豫想スルト云フコトハ益々困難ナノデアリマスカラ、大東亞圈内ニ於ケル物價統制ノ強化ノ必要ト云フモノハ、今日一層切實ナルモノガアルノデアリマス、政府ノ物價政策トシテ交易營團法案、或ハ爲替交易調整特別會計法案等ニ盛ラレテ居リマスモノハ、交易物資ノ物價差ヲ、一種ノ國營的「ブール」計算ニナサントスルモノデアツテ、端的ニ言ヘバ大陸ノ物價ト日本ノ物價トノ遮斷政策ニ外ナラナイノデアリマス、如何ニ物價ヲ遮斷致シマシテモ、或ハ日本ノ財政的負擔ヲ増シ、其ノ他色々ナ形ニ於テ大陸ノ此ノ高物價ト云フモノハ、日本ニ波及セザルヲ得ナイノデアル、併シ若シソレヲ或る程度マデ防グコトガ出來タト致シマシテモ、大東亞共榮圈ノ主體的地位ニアル日本トシテ、東亞共榮圈内ニ於ケル物價政策ガ、物價ノ遮斷政策ト云フ所ニ政策ノ基調ヲ置イテ居ルト云フコトハ、餘リニ過ギルト思フノデアリマス、物價政策ノ重大性ニ鑑ミマシテモ、モウ少シ根本的ナ對策ヲ、政府ハ御

テ、物價水準ノ低下ヲ圖ラナケレバ、物資ノ交流ト云フモノガ圓滑ニ行ハレルモノデハナノデアリマス、而モ日本ノ戰爭對策ニ對シテ、日本ハ積極的ニ乘出シテ、綜合的政策ノ推進ガ必要ダト存ズルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル方策ヲ講ゼラレツツアルカヲ承ツテ置キタイト思ヒマス

又政府ハ物價差ノ補償トシテ、中支ニ特別圓制度ヲ御持チニナツテ居ルノデアリマスガ、此ノ特別圓ト儲券トノ爲替比率ト云フモノハ、商品別ニ依ツテ異ナル非常ニ複雜ナル組織ニナツテ居ルノデアリマスガ、斯ノ如ク商品別ニ依ツテ爲替「レート」ガ異ナルト云フガ如キ特別圓ヲ持ツト云フコトガ、現地ノ通貨、爲替ノ安定ニ反スル結果ヲ齎サナサイデアラウカ、其ノ結果ガ高物價ヘ拍車ヲ掛ケルヤウナ結果ヲ齎サナイデアラウカ、寧ロスウ云フ特別圓ト云フモノハ廢止ヲシテ、物價差ノ補償ト云フモノハ特別圓ノ爲替操作ニ依ラズ、直接ニ物價ノ差ダケヲ補償スル一本建ノ制度ヲ御採用ニナル御意思ハナイカドウカ、私ハ疑ハザルヲ得ナイノデアル（拍手）一面ニ政府ハ行政簡素化ヲ遂行シテ、今日ノ議會ニ於テモ戰時行政特別法案等ヲ提出シテ、一切ヲ舉ゲテ戰力ノ增强ニ資セントシテ居ル、此ノ秋ニ方ツテ、而モ戰力增强ノ中心課題デアル東亞ノ物資ノ交流ニ對シ、簡素強力ナル體制ガ必要ナルニ拘ラズ、敢テ各省ガ互ヒニ牽制シ合フガ如キ疑ヒノアル複雜ナル體制ヲ選バレクト云フ理由ニ付テ、篤ト政府ノ御所見ヲ承ラナケレバナラヌノデアリマス（拍手）斯カル疑ヒヲ深クスルモノハ、我ガ國ノ貿易行政ガ、實ニ多

係デアリマスガ、政府ハ物資交易ニ對スル

ナリズム」ノ紛争ノ歴史其ノモノデアルカラデアル(拍手)寧口此ノ際特別會計ノ如キモノハ設置セズ、價格差ノ補償ト云フモノヲ豫算ニ計上シテ、或ハ彈力性ヲ持タス爲ニ、豫算外契約ノ形ニ致スコトガナゼイケナイノデアラウカ、却テサウスルコトガ、此ノ交易營團ノ運營ヲ圓滑ニスル所以、デハナカラウカト、私ハ思フノデアリマス、ソレニモ拘ラズ、茲ニ資金ト物トヲ切離シテ、特別會計ヲ御設置ニナツタノデアリマスカラ、其ノ眞ニ已ムヲ得ザル必要性ト云フモノヲ承リタイト共ニ、此ノ特別會計ノ設置ニ依リ、交易營團ノ活動ヲ阻碍シ、延イテハ物資交流ノ圓滑化ヲ阻礙セナイト云フ爲ニ、如何ナル萬全ノ御用意ヲ、政府ハ御持チニナツテ居ルカ、併セテ承ツテ置キタインデアリマス(拍手)

ニマデ携ハルト云フヤウナコトデヘ、運營ノ圓滑ハ期サレルモノデハアリマセヌ、併シナガラ數千ニ上ル今日ノ貿易業者ヲ全部残存セシメルト云フコトハ、到底不可能デアル、此ノ點ハ貿易業者自身ト雖モ、既ニ覺悟ガ出來上ツテ居ルト私ハ思フノデアリマス、併シナガラ此ノ轉廢業者ニ對シテハ、一般企業整備ノ例モアルコトデアリマス、彼等ガ多年「アフリカ」ノ涯マデモ、南米ノ涯マデモ、外貨獲得ノ爲ニ、延イテハ日本ノ輸入力確保ノ爲ニ、活躍シタ其ノ努力ニ報ユル爲ニモ、轉業ノ斡旋、生活助成、政府ハ萬遺憾ナキ對策ヲ講ゼラレンコトヲ要望シテ已マナイモノデアリマス(拍手)私ハ以上數點ニ對スル所管大臣ノ御所見ヲ承ルコトニシテ、私ノ質疑ヲ終リタイント存ジマス(拍手)

實施ニ當リマシテ、其ノ計畫通り之ヲ實施シテ行クト云フ責務ヲ、交易營團ガ擔フ譯デアリマシテ、之ニ依リマシテ計畫ガ的確ニ實施セラルルコトヲ期待シテ居ル次第デアリマス

此ノ交易營團ガ相手ト致シマスル地域及び是ガ取扱フ物資ニ付テノ御質問デアリマスガ、交易營團ノ性質カラ申シマシテ、出来ルダケ其ノ相手トスル所ノ地域ハ包括的廣ク、又取扱物資モ全面的ニ之ヲナスコトヲ理想ト致スコト言フヲ俟タナイノデアリマス、唯地域的ニハ、南方地域ハ先刻來申上ゲマス通り、軍政治下ニアリマシテ、現在此ノ南方占領地域トノ交易ハ、臨時軍事費特別會計ガ處理致シテ居リマスル關係上、今日ノ事態ニ於キマシテハ、交易營團ノ取扱ノ地域カラ、是ガ除カレルノモ已ムヲ得ナイ事態ダト考ヘマス、取扱物資ニ付キマシテハ、出來ルダケ包括的ニ取扱フ者ヘデアリマスルガ、唯專賣物資——專賣ニ依リマシテ國家ガ別ノ制度テ扱ツテ居リマス專賣物資、例ヘバ鹽、煙草等ノ如キ、キモ亦取扱ノ範圍外ニアリマス、併シナガ又特別ナ物資ニ付キマシテ特別會計ノ定メト、是等ノ物資ハ全體ノ交流物資ノ極ク一

的ニ交易營團ト云フモノガ、物資ヲ取扱フト云フ趣旨ニ悖ラナイモノダト考ヘテ居リマス
次ニ交易營團ト各現地ニ於ケル機構トノ關係ニアリマス、計畫交易ヲ的確ニ實施致シマスガ爲ニハ、現地ニ於キマシテ、ソレゾレ交易ニ關スル機構ガ整備サレナケレバナラヌコト、言フヲ俟タナインデアリマス、併シナガラ如何ナル形ニ於テ整備サレルカト云フコトニ付キマシテハ、ソレドヽノ地域ニ、ソレドヽ特殊ノ事情ガアリマスノ機徳、其ノ事情ヲ參酌シテ、現地ニ適當ナ統制機構ガ整備サレツツアリマス、此ノ整備サレル統制機構ト交易營團トノ關係ヲ、有機的ニ十分密接ナ關係ヲ取ル組織ニ付キマシテハ、或ハ人的ノ方面カラ、或ハ經營的ナ方面カラ、十分ナ調整ト連絡ヲ圖ツテ行ク考ヘデアリマス

次ニ交易營團ガ設立サレタ後ニ於ケル現在アリマスル調整機關トノ關係ニアリマス、交易營團ニ依リマシテ、強力ニ一元的な統制ヲ運營致シテ行キマス爲ニハ、成ベク調整機關ヲ交易營團ニ吸收統合スルコトガ望マシト考ヘマス、唯現在ノ實情ヲ以テシマシテハ、交易營團ガ出來マシテモ、ソレノ能力ト從來トノ關係ヲ考ヘマシテ、直チニ總テノ調整機關ヲ一時ニ吸收スルコトガ、果シテ能率的デアルカドウカニ付キマシテモ、十分考ヘナケレバナラヌト思フ

ノデアリマス、是等ノ點ヲ考慮シナガラ、理想ト致シマシテハ調整機關ヲ總テ吸收スルト云フ方向ニ進ンデ行キタイト考ヘテ居リマス

政府ト致シマシテハ他ノ中小商工業者ノ轉廢業、其ノ他ノ例ニ準ジマシテ十分ニ施策スル考ヘデアリマス(拍手)

ノ損ガ生ジマシタ場合ハ、到底交易營團自ラ處理スル譯ニ參リマセヌ、之ヲ處理致サウト思ヘバ、現狀ニ於テハ國內ニ於テ東亞

ベ、是へ非常ナ煩雜デアリマス、ソレデ交
易營團自ラノ記帳ニ於テ整理ヲ致シマシテ、
年ニ數回纏メテ處理スルト云フ極メテ簡素

尙ほ此ノ交易營團ガ出來マシタ後ニ於ケリ我國ノ貿易進展ニ付キマンテヘ、現在ノ貿易業者ノ過去ノ經驗ト其ノ功績ヘ、顯著ナモノガアルノデアリマシテ、是ヲ成ベタ全面的ニ活用スルコトヘ、又交易ノ能率ヲ上ゲル上カラ申シマシテモ、極メテ必要デアラウト思フノデアリマス、隨ヒマシテ交易營國ガ出來マシタ後ニ於キマシテモ、是等ノ貿易業者ヲ全面的ニ活用致シマシテ、營團自ラガ輸出入ノ仕事ヲヤルト言フコトヘ、極力避ケル方針デアリマス、唯御意見ニモアリマシタ通り、現在ノ貿易業者ノ立場ガ、此ノ多數ノ業者ヲ其ノ儘ニ存置シ得ルヤ否ヤト云フコトヘ、實ハ營團ガ出來ルカ出來ナイカニ拘ラズ、從來トモ是ガ整備ニ付キマシテハ、其ノ必要ガ痛感リ適當ノ整備ヲ要スル面モ、少クナカラウト思ヒマス、唯此ノ整備ニ當リマシテ、是等業者ノ地位ヲ十分ニ擁護致シマシテ、是等ノ者ガ整備ノ途上ニ於テ其ノ途ニ迷フトカ、或ハ將來ノ職域奉公ノ新シイ部面ニ出行クト云フヤウナコトニ對シマシテハ、

ノ國務大臣(賀屋興宣君) 只今ノ御質問ノ中特別會計ニ關シマスルコトト、特別圓制度ト申シマスカ、操作ト申シマスルカ、此ノ點ニ關シマスルコトヲ私ヨリ御答へ申上ゲマス、特別會計設置ノ理由ト致シマシテハ、御承知ノ如ク全資金ハ交易營團ニ於テ處理スルノデアリマス、特別會計ニ於テハ資金ノ處理ハ致サナイノデアリマス、只今ノ交易營團ノ取扱ヒマス交易ハ、戰爭ノ要請ニ基キマシテ、其榮團内ノ各國家地域ノ物資ノ交流デアリマス、ソレガ戰時現象トシマシテ、特異ノ價格差ヲ生ジマスル場合ニ、其ノ價格差ハ利益デアリマシタ場合ハ、是ハ私人ニ歸屬スベキ性質ノモノデハナイノデアリマス、國家ニ歸屬スベキ性質デアリマス、又損失モノデアリマス、謂ハベ其ノ差損差益ハ國ニ納ムル稅デアリ、國カラ與ヘル補助金デベキモノニアラズシテ、國家ノ負擔スベキアルガ如キ性質ヲ有シテ居ルモノデアリマス、ソレ故ニ假ニ之ヲ交易營團ニ於キマシテ、全部ノ處理ヲ致スニ致シマシテモ、他ノ交易營團ノ收支ヨリ區分ヲ致シマシテ、明瞭ニ價格差、價格益ヲ計算スベキモノデアリマス、斯ク致シマシタ場合ニ、其

ナリマシテ、今日ノ物價水準ヲ破壊スルノ
デアリマス、又利益ノアリマシタ場合モ、
交易營團ガ之ヲ收得スルト云フ理由ヘナイ
ノデアリマシテ、正確ニ之ヲ記帳スルノ必
要ガアルノデアリマス、實際的ニ申上ガレ
バ、其ノ記帳ヲ移シタルモノガ、特別會計
デアリマシテ、特別會計ト申シナガラ役人
ガ居リマスル譯デモナシ、事務所ガアリマ
スル譯デモアリマセヌ、前ニ申上ゲタヤウ
ナ性質ヲ有スル國家的ノ金デアリマスガ故
ニ、此ノ收支計算ヲ明瞭ニシマスル理由
デ設立致シタノデアリマス、尙ホ只今ノ狀
態ニ於キマシテハ、交易營團ハ全其榮閼内
ノ交易ヲ、全部的ニ扱フ段階ニ至ツテ居リ
マセヌコトハ、只今商工大臣ノ述ベラマシ
シタ通リデアリマス、隨テ價格損、價格益
ハ交易營團ノミニ起ルモノデハアリマセヌ、
マセヌコトハ、只今商工大臣ノ述ベラマシ
タ次第デアリマス、隨ヒマシテ此ノ特別會
計ニ依リマシテ、交易營團ノ仕事ガ障碍セ
ラレルコトハ毫モナインデアリマス、尙ホ實
際上ノ運營等ニ致シマシテモ、之ヲ輸入ノ
々々、輸出ノ一々ニ於テ計算ヲ致シマスレ

方法ヲ十分ニ講ジテ居ルノデゴザイマス、
次ニ特別圓ノ問題デゴザイマスガ、特別圓
唯只今ノ如キ計畫經濟ノ下ニ於キマシテヘ、
地域間國際間ノ資金ノ移動ヘ、假令其榮國
内ト雖モ自由ニ放任スル譯ニハ參リマセヌ、
隨ヒマシテ圓ハ自由ニ共榮園内ニ流通スル
ト云フ譯ニハ參リマセヌ、併シナガラ大體
ニ於テ其ノ性格ヲ附與シテ宜シイ性質ト限
度ノモノハ、斯様ナモノヲ認メマスルコト
ガ、特ニ地域間ノ交易ヲ促進シマスル上ニ
有效デアリマスルノデ、是ハ過般「タイ」國ニ
對シマシテモ、今回佛領印度支那ニ於キマ
シテモ、之ヲ認メマシテ同意致シマシタ次
第デアリマス、其ノ爲替「レート」ヘ佛印ニ
於キマシテモ、「タイ」ニ於キマシテモ、ソレ
ゾレ協定シタ「レート」ニ依ツテ居リマス、
但シ貿易上ノ實際ノ便宜ニ基キマシテ、爲
替銀行ガ特殊ノ「レート」ヲ以テ致シマスル
コトガ、非常ニ交易ノ實際ノ手續ヲ簡素ニ
シ、簡略ニスルト云フ場合ガ、是ヘ理窟デ
ナク從來ノ實驗上多イノデアリマスルノデ、
此ノ制度ガ行ハレテ居ル場面ガアルノデア
リマス、併シソレハ全ク其ノ便宜ニ基キマ
スルノデ、同ジモノガ商品別ノ差損差益ニ

於テ現ハレナイ場合ニ於テハ、同様ナモノ
ガ爲替ノ差損益ニ現ハレマスノデ、實際ハ
協定ヲシタル爲替「レート」ヲ紛淆スルガ如
キ虞ハ毫モナイノデアリマス、通貨ノ價值
ノ上ニ於テ不安定ヲ與ヘマスル原因ハ毫モ
ナイノデアリマス、又只今ノ問題ヲ離レマ
シテ、一般貿易ノ上ニ特別ノ「レート」ヲ考
ヘルト云フコトガ、一つノ方法デナイカト
云フ御尋ネデアリマス、是ハ尙ホ大東亞大臣ヨリモ御答ヘガアル問題デアリマスルガ、
ソレト申スノハ、最初ニ御述ベニナリマシ
タ共榮圈内ノ國家間、地域間ノ大キナ意味
ノ物資調整ノ問題、其ノ意思カラ御出發ニ
是ハ「サゼスチョン」デアル、考ヘ方デアル
ト存ジテ居リマスガ、關係スル所ガ中々多
イノデアリマスルカラ、只今斯カル「レー
ト」ヲ考ヘルトカ考ヘナイトカ云フコトニ
付キマシテハ、私ハ御答辯ヲ差控ヘタイト
存ジマス(拍手)

(國務大臣青木一男君登壇)

○國務大臣(青木一男君) 只今ノ御質問ノ
中デ、私ニ對スル分ニ對シテ御答ヘ申上ゲマ
ス、大東亞共榮圈内ノ交易計畫ハ、單ニ我
ガ國ト圈内各域トノ交易ノミナラズ、我ガ
國以外ノ各國、各地域間ノ交易ニ付テモ、
同様ノ計畫交換ヲ行フ必要ガアルノデハナ
イカト云フ點ニ付テノ御尋ネガアリマシタ、
此ノ點ハ確カニ私共モ左様ニ考ヘテ居ルノ
デアリマス、隨ヒマシテ、大東亞省ニ於キ
マシテハ、關係各國政府ト密接ニ連絡ヲ致
キ虞ハ毫モナイノデアリマス、通貨ノ價值
ノ上ニ於テ不安定ヲ與ヘマスル原因ハ毫モ
ナイノデアリマス、又只今ノ問題ヲ離レマ
シテ、一般貿易ノ上ニ特別ノ「レート」ヲ考
ヘルト云フコトガ、一つノ方法デナイカト
云フ御尋ネデアリマス、是ハ尙ホ大東亞大臣ヨリモ御答ヘガアル問題デアリマスルガ、
ソレト申スノハ、最初ニ御述ベニナリマシ
タ共榮圈内ノ國家間、地域間ノ大キナ意味
ノ物資調整ノ問題、其ノ意思カラ御出發ニ
是ハ「サゼスチョン」デアル、考ヘ方デアル
ト存ジテ居リマスガ、關係スル所ガ中々多
イノデアリマスルカラ、只今斯カル「レー
ト」ヲ考ヘルトカ考ヘナイトカ云フコトニ
付キマシテハ、私ハ御答辯ヲ差控ヘタイト
存ジマス(拍手)

○國務大臣(青木一男君登壇)

次ニハ產業立地計畫ノ點ニ付テデアリマ
スガ、此ノ問題ハ昨年大東亞建設審議會ニ
於テ、立派ナ御答申ヲ得テ居ルノデアリマス、
政府ニ於キマシテハ此ノ答申ヲ基準トシテ、
其ノ後ニ於ケル内外ノ情勢ヲ勘案シ、具體
シテハ國防ノ要請ト云フコトヲ、先づ考ヘ
ルノハ固ヨリデアリマスガ、資源ノ賦存ノ
狀況其ノ他產業條件ヲ十分勘案致シマシテ、
各地ノ特性ニ應ジ、大體ニ於キマシテハ
シマシテ、又必要ナル支援モ與ヘマシテ、
是等ノ計畫が理想的ニ、此ノ大東亞戰爭ヲ
勝抜ク爲ニ、又大東亞共榮圈建設ノ爲ニ、
最モ合理的ナ運用ヲナスヤウニ努力スル積
リデ居リマス

各現地ニ此ノ交易營團ニ對應スベキ現地
機構ヲ作ルコトハ、先程商工大臣ヨリ御說
明ノ通リデアリマスガ、之ニ付キマシテハ
今日マデモ國ニ依ツテ形ハ違ヒマスガ、或
ル程度ノ整備ヲ見テ居リマス、併シ我ガ國
ニ於テ今回斯ウ云フ制度ヲ確立致シマシタ
マシテハ、差當リ努力ノ中心ヲ帝國ノ戰力增
強ニ置クコトハ、是ハ當然デアリマス、併シナ
ガラ各地ニ於キマシテモ、我ガ國ニ供出スベ
シ所ノ軍需工業ノ原料、其ノ他ノモノノ生
産ヲ圖ルト同時ニ、現地住民ノ生活必要品
ニ付テモ、出來ルダケノ増産ヲ行ハシメルト
云フコトニ努力セネバナラスト考ヘテ居リマ
ス、其ノ一例トシテ考ヘテ居ラレマスルノ
ガ、纖維工業或ハ雜工業ノ現地移駐ノ問題
デアリマス、是ハ我ガ國ノ國內事情カラモ來
テ居ルノデアリマスガ、現地ニ於キマシテハ從
來米英其ノ他ノ諸國、或ハ我ガ國カラ日用
品ヲ主ニ買ツテ居ツタ、是ガ急ニ來ナクナ
ツタト云フコトガ、現地住民ノ生活上大キ
ニ現地ノ原料、勞力等ヲ利用シ、又必要ニ
應ジテハ我ガ國カラ設備、技術等モ貸シテ
シタイト考ヘテ居リマス

大東亞共榮圈各國ノ物價ガ非常ニ高クナ
ツテ來テ居ルト云フコトハ、仰セノ通りデ
アリマス、此ノコトガ共榮圈内ニ於ケル物
資ノ交流ノ非常ナル障害デアルト云フコト
モ、申スマデモナイ點デアリマシテ、此ノ
法案ノ提案サレタ所以モ、其ノ一半ハ其ノ
點ニアルト存ジマス、此ノコトハ獨リ交易
問題ノ關係ノミナラズ、現地ニ於ケル民生
ノ安定、治安ト云フヤウナコトニモ非常ナ
重大ナル關係ガアル問題デアリマスノデ、
圈内各國共此ノ問題ニハ非常ナ苦心努力ヲ
致シテ居ルノデアリマス、併シナガラ戰爭
ノ影響又先程申シマシタ如ク、事變或ハ大
東亞戰爭ノ結果、從來カラノ物資ノ交流關
係、輸出入關係ト云フモノガ一變シテ來マ
シタ爲ニ、急激ニ生活必需品ガ缺乏シタ、
殊ニ從來ノ「ストック」ガ減ツテ來タト云フ
テ居ルノデアリマスガ、現地ニ於キマシテハ從
來米英其ノ他ノ諸國、或ハ我ガ國カラ日用
品ヲ主ニ買ツテ居ツタ、是ガ急ニ來ナクナ
ツタト云フコトガ、現地住民ノ生活上大キ
ニ現地ノ原料、勞力等ヲ利用シ、又必要ニ
應ジテハ我ガ國カラ設備、技術等モ貸シテ
シタイト考ヘテ居リマス

行サレ、昨年末マデニ成功ヲ見ルニ至ツタヤウナ次第アリマス、此ノ通貨ノ制度ノ確立ト共ニ、此ノ價值安定ニ付テ、先づ以テ各國トモ、財政ノ方面カラ此ノ通貨ノ膨脹ヲ來サナイヤウニ非常ナル苦心ヲ拂ツテ居リマス、此ノ點ニ付キマシテハ、大體ニ於テ今日マデ健全財政ノ方針ヲ維持シテ來居ルト申上ゲテ宜シノデアリマスルガ、併シナガラ他ノ產業開發、或ハ其ノ他物資ノ取得ノ爲ニモ、相當巨額ノ通貨ガ出テ参リマスノデ、此ノ通貨ノ裏付ケヲナスガ、併シナガラ他ノ産業開發、或ハ其ノ他物資ノ安定ヲ計ルト云フコトハ、非常ニ難カシイト共ニ重大ナル問題ニナツテ來テ居リマス、又貯蓄ノ獎勵等モ満洲國等デヘ非常ニ力ヲ入レテ居リマスガ、他ノ地域デヘ慣習其ノ他ノ爲ニ、中々思フヤウニ參リマセヌ、又統制法規ヲ我ガ國ノ如ク徹底的ニ施行シテ、此ノ物價政策ヲ强行スルト云フ點ニ至リマシテモ、各國ノ政情或ハ民度等ノ關係カラ、中々思フヤウニ行カナイ實情モ諒トセネバナラヌノデアリマス、隨ヒマシテ通貨方面カラ此ノ通貨ノ膨脹ヲ避ケ、物價ノ騰貴ヲ阻止スルト云フコトダケデナリマス、隨ヒマシテ今マデ行ヘレテ居リシニ、今日デハ出來ルダケ物ノ方面カラ、此ノ對策ヲ講ズル急務ニ迫ラレテ居ルノデアリマシタノデ、私ハ質問ヲ御遠慮致サアリマス、隨ヒマシテ今マデ行ヘレテ居リシニ、今日デハ出來ルダケ物ノ方面カラ、此ノ對策ヲ講ズル急務ニ迫ラレテ居ルノデアリマスカラ、簡單ニ若干點

ニ依ツテ出デ行ク通貨ノ裏付ケヲナシ、一方ニ於テハ民生ノ安定ヲ圖ルト共ニ、我ガ國ニ對スル協力ニ遺憾ナキコトヲ期シテ居ル實情ニアルノデアリマス、先程大藏大臣カラ御話ノアリマシタ通り、現地ノ物價騰貴ト内地ノ物價トノ價格差ノ調整ニ付キマシテハ、今日マデモ色々ノ形デ其ノ調整方法ハレテ居リマスガ、今後此ノ法案ガ通り行ハレテ居リマスガ、明ニ力強ク實行サレルモノト期待シテ居リマス、併シ其ノ方法ニ付キマシテハ、各現地ノ實情ニ應ジテ必ズシモ劃一的ニ墮サナイヤウニ、有效ナル方法ヲ執ツテ行ク考ヘデアリマス(拍手)

○議長(岡田忠彦君) 今井嘉幸君

(今井嘉幸君登壇)

○今井嘉幸君 交易營團法案、異様ナ存在デアリマス、一般國民ハ驚キノ眼ヲ以テ見テ居リマス、殊ニ貿易業者ハ非常ナ不安ヲ居ル、營團即チ是デアリマス、ソレカラ次ノ特色ヘ、我ガ統制經濟ハ、是ハ人民ノ方ノ側ノ考ヘデアリマスガ、官僚獨善ト云フモノデアル、指導デアリマスカラ、是ハ上カラ何事カラヤラナケレバナラヌ、初メハ其ノ機構外ニアリマシテ命令ヲスルトカ、許可ヲスルト云フ形式デヤツテ居ツタノデアリマスガ、段々此ノ統制ガ進ンデ來マスト、自然ニ其ノ機構ノ中ニ入り込ンデ來ル、ソレハ官權ガ入ルノデアリマセヌガ、天降リト云フ形デ其ノ中ニドンノ入ル、サウシテ近來ニ至リマシテハ、其ノ俸給マジク日本國民デアル、前線ニ出レバ世界無比ノ兵士ニナルノデアルケレドモ、銃後ニ歸ツテ來ルト統制違反ヲ出ス、斯ウ云フコトハ頗ルヲカシナコトデアリマシテ、是ハ

居ルノデアリマスカラ、簡單ニ若干點モ又銃後ニ於キマシテモ、町内會ヲ初メト詳細ニ伺ヒタイノデアリマス、我ガ國ノ經濟統制ハ、注意スペキ特色ヲ三ツ持ツテ居ル、其ノ一つハ指導原理ガ頗ル屢々變轉ヲ居ル實情ニアルノデアリマス、先程大藏大臣カラ御話ノアリマシタ通り、現地ノ物價騰貴ト内地ノ物價トノ價格差ノ調整ニ付キマシテハ、今日マデモ色々ノ形デ其ノ調整方法ハレテ居リマスガ、今後此ノ法案ガ通り行ハレテ居リマスガ、明ニ力強ク實行サレルモノト期待シテ居リマス、併シ其ノ方法ニ付キマシテハ、各現地ノ實情ニ應ジテ必ズシモ劃一的ニ墮サナイヤウニ、有效ナル方法ヲ執ツテ行ク考ヘデアリマス(拍手)

○今井嘉幸君 交易營團法案、異様ナ存在デアリマス、一般國民ハ驚キノ眼ヲ以テ見テ居リマス、殊ニ貿易業者ハ非常ナ不安ヲ居ル、營團即チ是デアリマス、ソレカラ次ノ特色ヘ、我ガ統制經濟ハ、是ハ人民ノ方ノ側ノ考ヘデアリマスガ、官僚獨善ト云フモノデアル、指導デアリマスカラ、是ハ上カラ何事カラヤラナケレバナラヌ、初メハ其ノ機構外ニアリマシテ命令ヲスルトカ、許可ヲスルト云フ形式デヤツテ居ツタノデアリマスガ、段々此ノ統制ガ進ンデ來マスト、自然ニ其ノ機構ノ中ニ入り込ンデ來ル、ソレハ官權ガ入ルノデアリマセヌガ、天降リト云フ形デ其ノ中ニドンノ入ル、サウシテ近來ニ至リマシテハ、其ノ俸給マジク日本國民デアル、前線ニ出レバ世界無比ノ兵士ニナルノデアルケレドモ、銃後ニ歸ツテ來ルト統制違反ヲ出ス、斯ウ云フコトハ頗ルヲカシナコトデアリマシテ、是ハ居ルノデアリマスカラ、簡單ニ若干點モ又銃後ニ於キマシテモ、町内會ヲ初メト詳細ニ伺ヒタイノデアリマス、我ガ國ノ經濟統制ハ、注意スペキ特色ヲ三ツ持ツテ居ル、其ノ一つハ指導原理ガ頗ル屢々變轉ヲ居ル實情ニアルノデアリマス、先程大藏大臣カラ御話ノアリマシタ通り、現地ノ物價騰貴ト内地ノ物價トノ價格差ノ調整ニ付キマシテハ、今日マデモ色々ノ形デ其ノ調整方法ハレテ居リマスガ、今後此ノ法案ガ通り行ハレテ居リマスガ、明ニ力強ク實行サレルモノト期待シテ居リマス、併シ其ノ方法ニ付キマシテハ、各現地ノ實情ニ應ジテ必ズシモ劃一的ニ墮サナイヤウニ、有效ナル方法ヲ執ツテ行ク考ヘデアリマス(拍手)

○今井嘉幸君 交易營團法案、異様ナ存在デアリマス、一般國民ハ驚キノ眼ヲ以テ見テ居リマス、殊ニ貿易業者ハ非常ナ不安ヲ居ル、營團即チ是デアリマス、ソレカラ次ノ特色ヘ、我ガ統制經濟ハ、是ハ人民ノ方ノ側ノ考ヘデアリマスガ、官僚獨善ト云フモノデアル、指導デアリマスカラ、是ハ上カラ何事カラヤラナケレバナラヌ、初メハ其ノ機構外ニアリマシテ命令ヲスルトカ、許可ヲスルト云フ形式デヤツテ居ツタノデアリマスガ、段々此ノ統制ガ進ンデ來マスト、自然ニ其ノ機構ノ中ニ入り込ンデ來ル、ソレハ官權ガ入ルノデアリマセヌガ、天降リト云フ形デ其ノ中ニドンノ入ル、サウシテ近來ニ至リマシテハ、其ノ俸給マジク日本國民デアル、前線ニ出レバ世界無比ノ兵士ニナルノデアルケレドモ、銃後ニ歸ツテ來ルト統制違反ヲ出ス、斯ウ云フコトハ頗ルヲカシナコトデアリマシテ、是ハ居ルノデアリマスカラ、簡單ニ若干點モ又銃後ニ於キマシテモ、町内會ヲ初メト詳細ニ伺ヒタイノデアリマス、我ガ國ノ經濟統制ハ、注意スペキ特色ヲ三ツ持ツテ居ル、其ノ一つハ指導原理ガ頗ル屢々變轉ヲ居ル實情ニアルノデアリマス、先程大藏大臣カラ御話ノアリマシタ通り、現地ノ物價騰貴ト内地ノ物價トノ價格差ノ調整ニ付キマシテハ、今日マデモ色々ノ形デ其ノ調整方法ハレテ居リマスガ、今後此ノ法案ガ通り行ハレテ居リマスガ、明ニ力強ク實行サレルモノト期待シテ居リマス、併シ其ノ方法ニ付キマシテハ、各現地ノ實情ニ應ジテ必ズシモ劃一的ニ墮サナイヤウニ、有效ナル方法ヲ執ツテ行ク考ヘデアリマス(拍手)

ハ見ナケレバナラヌ、一般貿易業者ハ斯ウ
云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマスルガ、官
僚獨善ノ點ハ是カラ始マルノデアリマスカ
ラ、マダ批判ノ限りデハアリマセヌガ、此
ノ指導原理ノ方面ニ於キマシテモ、貿易範
圍ニ於キマシテハ、貿易組合ヲ作レト云
フ、ソレカラ今度ハ振興會社ヲ又作レト云
フ、統制會ニシロト云フ、ソレカラ重要物
資管理營團ト云フモノモ持ヘテ居ル、而シ
テ今度ハ交易營團ト云フモノニスルコトニ
ナツタ、最高峰、最高度ノ統制ヲ今日ヤラ
ウト致シテ居ルノデアリマス、想ヒ起シマ
スガ、世界大戰ノ後ニ「ロシヤ」ニヘ商賣人
ガナクナツテ、政府ガ貿易ヲヤラウト云フ
コトニ付テ、吾々ハ驚キノ眼ヲ以テ見タノ
デアル、「フランス」人ガ昔「アメリカ」ノ獨
立シタ時ニ、王サンノナイ國ガ出來タト云
フコトヲ驚イタ程吾々ハ驚イタノデアリマ
ス（軌道ニ戻レ」ト呼ブ者アリ）今日日本ガ
其ノ最高峰ニ達スルト云フコトヘ、殆ド思
ヒモ寄ラナカツタコトデゴザイマス、今日
此ノ態勢ハ世界中「ロシヤ」以外ニハ餘リ多
ク見ナイト私ハ思フノデアリマスガ…
○議長（岡田忠彦君） 今井君、議題ニ付テ
ノ質疑ヲ進メラレタラ宜カラウト思ヒマス
○今井嘉幸君（續） ソレデハ國民ノ協力ト
云フコトハドウデアルカト申シマスト、十
分ニ此ノ制度ヲマダ諒解ヲ致シテ居リマセ
ス、而シテ其ノ事物其ノモノガ、果シテソ

レニ適當スルカドウカト云フコトガ、甚ダ
疑ハシイノデアリマス、是ハ貿易業者ノ立
場カラ言フノデアリマスルガ、凡ソ貿易ト
何フモノハ、是ハ自由經濟ノ最初ノモノデ
アツテ、最後ノモノデアルノデアリマス、
ソコニハ日本ノ法律ト云フモノハ行ヘレナ
イノデアリマス、而シテ此ノ外國人ノ經濟
體制ト云フモノハ、必ズシモ同一デナイ、
先程物價政策ニ付テ色々御話ガゴザイマシ
タケレドモ、斯ウ云フヤウナ日本ノ法律ノ
及バザル所ニ向ツテ號令ヲ掛ケテモ、ソレ
ハ思フヤウニナラナイ、昔英國ノ王様ガ、
波ニ向ツテ號令シタト云フノデアリマス
ガ、中々サウ云フヤウニ思フヤウニナルモ
ノゾヤナインデス、ノミナラズ貿易ニ付テ
ハ個性發揮ト云フコトガ、甚ダ大キナ問題
アリマス、サウ言フヤウナ事物ニ對シマシ
テ、何ガ故ニ統制ノ最高峯デアル所ノ營團
ト云フ形式ヲ採ラナケレバナラナカツタカ
ト云フ其ノ根本理由ニ付テ伺ヒタイノガ、
第一點デアリマス、此ノ點ノ御説明ガ十分
ニ足ラナカツタ私ハ考ヘルノデ、貿易業
者ハ非常ニ其ノ點ニ向ツテ不諒解デアリマ
スルカラ、此ノ爲ニ十分ノ御説明ヲ希望ス
ル次第デゴザイマス

シタケレドモ、其ノ御説明が十分デナカツ
タヤウニ思ハレルカラ、補足ヲシテ戴キタ
イノデアリマス、言換ヘレバ、此ノ交易營
團ヲ適用スルノハ、第三國貿易ニモ適用ス
ルカドウカ、東亞共榮圈以外ノモノニモ、
適用スルカドウカト云フコトモ分ラナイ、
ソレカラ支那、滿洲ニハ無論適用スルノデ
ゴザイマセウガ、南洋ニ向ツテヘドウスル
カ、南洋ト申セバ大陸南洋ト、海洋南洋トノ
二ツニ區別致シマスガ、大陸南洋トヘ印度
支那半島ノ南洋デアリ、海洋南洋トヘ島デ
アリマスガ、今伺フ所ニ依リマスルト、其
ノ點ガヘツキリ致シテ居ラナカツタノデアリマス、
リマスガ、聞ク所ニ依リマスルト、ソレヘ
大陸南洋ノミニ適用スルノデ、島ノ南洋ニ
付テヘ適用シナイ、言換ヘレバ、昔ノ蘭領、
今日ノ東印度諸島及ビ「フイリッピン」ニヘ
適用シナイヤウニ伺ツテ居ルノデアリマス、
而シテ此ノ大陸南洋ノ中ノ印度支那半島、
即チ佛印「タイ」「ビルマ」「マライ」斯ウ云フ
ヤウナ所ニヘ適用スルケレドモ、今伺フト
云フト、米ト云フモノハ其ノ中カラ除外ス
ル、專賣制度ヲ行ツテ居ルモノハ無論除外ス
ルガ、米モ除外スルト云フコトデゴザイマ
ス、併シナガラ此ノ大陸南洋ノ中ノ主要
ナル物産ト云フモノハ、米ヲ措イテ殆ドナイ
ノデアリマス、「ホンゲイ」ノ石炭位ノモノ
デアル、ソレモ極ク僅カデアル、是ハ數字

フヤウニ殆ド從來ノ貿易ハナイノテアリマス、第一海洋南洋——島ノ南洋ヲ除ク、而シテ大陸南洋ノ中デ米モ除ク、殆ド適用スル範圍ト云フモノハ有名無實ニナルノデナイカト思フ、今日本人ハ南ヘトト、南ノ方ヘ適用スル區域ト云フモノハ非常ニ狭イ、是ハドウ云フ譯デアリマスルカ、モウ少シ大キクシタラ宜ササウナモノデアルガ、此ノ點ニ付テ承リタイノデアリマス

ソレカラ第三ハ對支、寧ロ對支那人關係デアリマス、御承知ノ如ク支那ハ土地大ニシテ物豐カニ、人民ハ四億モゴザイマスガ、此ノ國ハ古イ國デ、個人主義デ今マデ叩キ上げタ國デアルノデアリマス、統制經濟ナント云フコトハ思ヒモ寄ラナイ、サウ云フヤウナモノヲ相手ニシテ、是カラヤツテ行カナクチヤナラヌノデアリマスガ、彼等ハ茲ニ交易營團ト云フ怪物ガ現ハレテ來テ、異様ナ眼ヲ以テ之ヲ見ルダラウト思フガ、是ガ果シテ故障ナキラ得ルカドウカ、一體貿易ト云フモノハ親シミト溫カミト、個性ニ濃厚ナル關係ガアツテ、初メテ圓滑ニ行ハルノデゴザイマス、若シ彼等ガ賣惜其ノ他ノ手違ヒニ依リマシテ、其ノ結果差損ヲ國家ニ莫大ニ課スルト云フヤウナコトニナツタナラバ、此ノ公益營團ノ目的ハ十分ニ達セラレバイノデゴザイマスガ、此ノ點ハ唯單ニ支那

大陸ダケデネイ、南洋ニ付テモ同様デアル、
南洋ノ華僑ハ八百万ト稱セラレル、殊ニ大陸
南洋ハ其ノ中ノ六百マデモ持ツテ居ルノデ
ゴザイマスガ、其處ニ於ケル華僑ノ經濟力
ハ非常ナモノデアル、殊ニ商業ハ彼等方鍵
ヲ握ツテ居ルノデアリマス、而シテ彼等ノ
力ハ其ノ地方ノ政治力ニモ非常ナ影響ヲ及
ボシテ居リ、又本國ノ政治ヲモ動カシテ居
ルヤウナ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、
謂ハバ是等ノ地方ハ寧ロ支那ノ領土ノ延長
ナリト言ウテモ宜シイ、實際支那ハ此處ヲ
領土ト致シテ居ツタ時代モアルノデアリマ
ス、「ドイツ」ノ地政學者ヘ、將來西南太平洋
ハ民族自覺ノ結果支那ガ支配スルヤウニナ
ル、支那ノ領土ニナルデアラウト云フコト
ヲ、喝破シタコトガアル位デアリマシテ、
此處ハ支那ノ領土、支那人ノ場所デアルト
言ツテモ宜シイ位ノ重要性ヲ持ツテ居ル、
是等ノ華僑ニ對スル對策ハ、先程申上ゲマ
シタ關係ガヤハリ同ジク行ハレルノデゴザ
イマスガ、此ノ華僑對策ニ對シテ御當局ノ
所見ヲ伺ヒタイ、交易營團ヲ實行スル場合
ニ於テ、彼等ヲドウ云フ風ニ扱ツテ行クノ
カト云フコトニ付テ、御意見ヲ伺ヒタイノ
デアリマス

第四ニハ運營ノ中心ヲ何處へ置カレルカ
ト云フコトデゴザイマス、元來貿易ノ大半
ハ阪神地方ニ從來アツタメデゴザイマス、
殊ニ「アメリカ」ガアア云ラ風ニナツテ來テ、
ノミナラズ支那ノ貿易業者ハ二千五百人ノ
中デ、二千軒マデ阪神地方ニアルノデアリ
マス、殊ニ最モ注意スベキハ、支那ニ於テ
ハ華僑ノ根據地ガアル、南洋ノ華僑ハ廣東、
福建ノ出身者デアリマス、殊ニ神戸ノ華僑
ハ福建、廣東ノ人デアル、謂ハバ華僑ノ一
角ガ神戸、阪神地方ニアリト言ツテモ宜シ
イノデアリマシテ、華僑對策ノ上カラ考ヘ
テ見マシテモ、阪神地方ハ洵ニ重要性ヲ持
ツテ居ルノデゴザイマス、一體政治ノ中心
ハ東京ニアルガ、經濟ノ中心ハ阪神地方ニ
アルト、從來ハ言ツテ居ツタノデゴザイマ
スケレドモ、此ノ頃ニ至ルト、何事モ皆中
央ニ來ナケレバ解決ガ付カナイ、東京々々、
ト云フモノハ結局大貿易商ノ專有物ト相成
ルト云フコトヲ、吾々ハ憂フルノデアリマ
ス、ナゼナラ重要物資營團ハ、ドウ云フ
人ガ持ツテ居ルカ、極ク若干ノ人ガ持ツテ
居ルダケデアリマシテ、殆ド大部分ノ貿
易關係者ハ之ニ關係ヲ致シテ居ナイ、昔
寡頭政治ト云フコトガアリマシタガ、寡頭
經濟段階ニ入ツテ居ルノデゴザイマス、其
ノ重要物資營團ガ其ノ儘交易營團ニ生レ變
ルノデゴザイマス、サウ致シマスルト、
分ルノデアルカ、殊ニ疑問ト致シテ居
ルヤウナ重大ナモノアル所ノ貿易上、今
日作ラントスル交易營團ノ中心點ハ何處
ニ置カレルカ、營團法ニ依ルト東京ニ置ク
ト書イテアリマスケレドモ、サウ云フヤウ

ノ貿易業者ガ七百七軒ニ統合セラレマシタ
ガ、其ノ中ノ半分以上ハ阪神地方ニアル、
ノミナラズ支那ノ貿易業者ハ二千五百人ノ
中デ、二千軒マデ阪神地方ニアルノデアリ
マス、殊ニ最モ注意スベキハ、支那ニ於テ
ハ華僑ノ根據地ガアル、南洋ノ華僑ハ廣東、
福建ノ出身者デアリマス、殊ニ神戸ノ華僑
ハ福建、廣東ノ人デアル、謂ハバ華僑ノ一
角ガ神戸、阪神地方ニアリト言ツテモ宜シ
イノデアリマシテ、華僑對策ノ上カラ考ヘ
テ見マシテモ、阪神地方ハ洵ニ重要性ヲ持
ツテ居ルノデゴザイマス、一體政治ノ中心
ハ東京ニアルガ、經濟ノ中心ハ阪神地方ニ
アルト、從來ハ言ツテ居ツタノデゴザイマ
スケレドモ、此ノ頃ニ至ルト、何事モ皆中
央ニ來ナケレバ解決ガ付カナイ、東京々々、
ト云フモノハ結局大貿易商ノ專有物ト相成
ルト云フコトヲ、吾々ハ憂フルノデアリマ
ス、ナゼナラ重要物資營團ハ、ドウ云フ
人ガ持ツテ居ルカ、極ク若干ノ人ガ持ツテ
居ルダケデアリマシテ、殆ド大部分ノ貿
易關係者ハ之ニ關係ヲ致シテ居ナイ、昔
寡頭政治ト云フコトガアリマシタガ、寡頭
經濟段階ニ入ツテ居ルノデゴザイマス、其
ノ重要物資營團ガ其ノ儘交易營團ニ生レ變
ルノデゴザイマス、サウ致シマスルト、
分ルノデアルカ、殊ニ疑問ト致シテ居
ルヤウナ重大ナモノアル所ノ貿易上、今
日作ラントスル交易營團ノ中心點ハ何處
ニ置カレルカ、營團法ニ依ルト東京ニ置ク
ト書イテアリマスケレドモ、サウ云フヤウ

ナ重要性ヲ占メテ居ル場所ニ、ナゼ中心ノ
場所ヲ置カナイカ、満鐵ハ大連ニ本社ヲ置
イテ、東京ヘ支所ヲ置イテ居ルヂヤナイカ、
ノ貿易業者ガ七百七軒ニ統合セラレマシタ
ガ、其ノ中ノ半分以上ハ阪神地方ニアル、
ノミナラズ支那ノ貿易業者ハ二千五百人ノ
中デ、二千軒マデ阪神地方ニアルノデアリ
マス、殊ニ最モ注意スベキハ、支那ニ於テ
ハ華僑ノ根據地ガアル、南洋ノ華僑ハ廣東、
福建ノ出身者デアリマス、殊ニ神戸ノ華僑
ハ福建、廣東ノ人デアル、謂ハバ華僑ノ一
角ガ神戸、阪神地方ニアリト言ツテモ宜シ
イノデアリマシテ、華僑對策ノ上カラ考ヘ
テ見マシテモ、阪神地方ハ洵ニ重要性ヲ持
ツテ居ルノデゴザイマス、一體政治ノ中心
ハ東京ニアルガ、經濟ノ中心ハ阪神地方ニ
アルト、從來ハ言ツテ居ツタノデゴザイマ
スケレドモ、此ノ頃ニ至ルト、何事モ皆中
央ニ來ナケレバ解決ガ付カナイ、東京々々、
ト云フモノハ結局大貿易商ノ專有物ト相成
ルト云フコトヲ、吾々ハ憂フルノデアリマ
ス、ナゼナラ重要物資營團ハ、ドウ云フ
人ガ持ツテ居ルカ、極ク若干ノ人ガ持ツテ
居ルダケデアリマシテ、殆ド大部分ノ貿
易關係者ハ之ニ關係ヲ致シテ居ナイ、昔
寡頭政治ト云フコトガアリマシタガ、寡頭
經濟段階ニ入ツテ居ルノデゴザイマス、其
ノ重要物資營團ガ其ノ儘交易營團ニ生レ變
ルノデゴザイマス、サウ致シマスルト、
分ルノデアルカ、殊ニ疑問ト致シテ居
ルヤウナ重大ナモノアル所ノ貿易上、今
日作ラントスル交易營團ノ中心點ハ何處
ニ置カレルカ、營團法ニ依ルト東京ニ置ク
ト書イテアリマスケレドモ、サウ云フヤウ

ナ重要性ヲ占メテ居ル場所ニ、ナゼ中心ノ
場所ヲ置カナイカ、満鐵ハ大連ニ本社ヲ置
イテ、東京ヘ支所ヲ置イテ居ルヂヤナイカ、
ノ貿易業者ガ七百七軒ニ統合セラレマシタ
ガ、其ノ中ノ半分以上ハ阪神地方ニアル、
ノミナラズ支那ノ貿易業者ハ二千五百人ノ
中デ、二千軒マデ阪神地方ニアルノデアリ
マス、殊ニ最モ注意スベキハ、支那ニ於テ
ハ華僑ノ根據地ガアル、南洋ノ華僑ハ廣東、
福建ノ出身者デアリマス、殊ニ神戸ノ華僑
ハ福建、廣東ノ人デアル、謂ハバ華僑ノ一
角ガ神戸、阪神地方ニアリト言ツテモ宜シ
イノデアリマシテ、華僑對策ノ上カラ考ヘ
テ見マシテモ、阪神地方ハ洵ニ重要性ヲ持
ツテ居ルノデゴザイマス、一體政治ノ中心
ハ東京ニアルガ、經濟ノ中心ハ阪神地方ニ
アルト、從來ハ言ツテ居ツタノデゴザイマ
スケレドモ、此ノ頃ニ至ルト、何事モ皆中
央ニ來ナケレバ解決ガ付カナイ、東京々々、
ト云フモノハ結局大貿易商ノ專有物ト相成
ルト云フコトヲ、吾々ハ憂フルノデアリマ
ス、ナゼナラ重要物資營團ハ、ドウ云フ
人ガ持ツテ居ルカ、極ク若干ノ人ガ持ツテ
居ルダケデアリマシテ、殆ド大部分ノ貿
易關係者ハ之ニ關係ヲ致シテ居ナイ、昔
寡頭政治ト云フコトガアリマシタガ、寡頭
經濟段階ニ入ツテ居ルノデゴザイマス、其
ノ重要物資營團ガ其ノ儘交易營團ニ生レ變
ルノデゴザイマス、サウ致シマスルト、
分ルノデアルカ、殊ニ疑問ト致シテ居
ルヤウナ重大ナモノアル所ノ貿易上、今
日作ラントスル交易營團ノ中心點ハ何處
ニ置カレルカ、營團法ニ依ルト東京ニ置ク
ト書イテアリマスケレドモ、サウ云フヤウ

設備ト云ヒ、實ニ見ルニ堪ヘナイ狀態ニアルコトヘ、私共方々デ見受ケル所デゴザイマシテ、本富ノ勞務ハ歡喜勞働デナケレバナラヌノニ、歡喜勞働ナント云フコトトヘ、凡ソ縁ノ遠イ狀態ニ今日アルノデゴザイマス、是デハ戰力増強ガ非常ニヤカマシイケレドモ、ソンナコトハ思ヒモ寄ラザルコル、サウ云フ境涯ニ陷ラナケレバナラヌヤウナ運命ニ、今日向ヒツツアルノデアリマス、前質問者ノ言葉ノ中ニモアリマシタガ、日本ノ貿易業者ニハ、其ノ性能ヲ十分發揮スル餘地ヲ、是カラ與ヘナケレバナラヌト思フノデゴザイマス、元來日本ノ今日興隆致シタ所ノ功績ニ付テハ、彼等ハ從來與力アルトヘ思ヒマスガ、一方ニ於キマシテ德川時代ニハ、御朱印船ニ依ツテ國家ガ貿易權ヲ握リ、其ノ貿易權ノ根本ハ國家ガ有シテ居ツタト云フコトカラ考ヘテ見マスト〔簡單簡單〕奉還ノ言葉モ或ハ適當デナカラウカト思ヒマスルガ、彼等ノ心情ハ貿易奉還異常ノハ、併シナガラ是ガ國ノ爲ニナルヤウニシテ貰ヒタイ、吾々ノ途モ立行クヤウス、我ガ南洋貿易ノ先驅ヲ開イタノデゴザイマス、而シテ歐洲大戰後ニ於キマシテモ、日本ノ製品ハ世界ヲ風靡致シタノデアリマス、ヤウナ狀態デ日本ノ貿易業者ト云フモノハ、非常ナル腕前ヲ持ツテ居ル、之ヲ其ノ能ニ從ツテナゼ利利用ヲナサラナイカ、是等ニ、機構ノ中ニ吸收ヲ致シテシマフヨリモ、中ニ外廓トシテ外ニ殘シテ置イテ、サウシテ

其ノ儘彼等ヲ使ツテ……今日統制會ト云フモノモゴザイマスカラ、其ノ統制會ノ統制組織ニ依ツテ、之ヲ巧ク扱ツテ行ク所ノ途ハナイデアラウカ、殊ニ彼等ノ中ニハ貿易奉還、ソレハ吾々ハ覺悟致シテ居ルケレドモ、併シナガラ奉還ノ結果旨ク國家ノ爲ニ行クヤウニシテ貰ヒタイノダ、吾々自身モ將來途ノ立ツヤウニシテ貰ハナケレバナラヌト云フ健氣ナコトヲ言ウテ居リマス〔簡単々々〕私ハ貿易奉還ト云フ言葉其ノモノニ語弊方アルトヘ思ヒマスガ、一方ニ於キマシテ德川時代ニハ、御朱印船ニ依ツテ國家ガ貿易權ヲ握リ、其ノ貿易權ノ根本ハ國家ガ有シテ居ツタト云フコトカラ考ヘテ見マスト〔簡單簡單〕奉還ノ言葉モ或ハ適當デナカラウカト思ヒマスルガ、彼等ノ心情ハ貿易奉還異常ノハ、併シナガラ是ガ國ノ爲ニナルヤウニシテ貰ヒタイ、吾々ノ途モ立行クヤウス、我ガ南洋貿易ノ先驅ヲ開イタノデゴザイマス、而シテ歐洲大戰後ニ於キマシテモ、日本ノ製品ハ世界ヲ風靡致シタノデアリマス、ヤウナ狀態デ日本ノ貿易業者ト云フモノハ、非常ナル腕前ヲ持ツテ居ル、之ヲ其ノ能ニ從ツテナゼ利利用ヲナサラナイカ、是等ニ、機構ノ中ニ吸收ヲ致シテシマフヨリモ、中ニ外廓トシテ外ニ殘シテ置イテ、サウシテ

設備ト云ヒ、實ニ見ルニ堪ヘナイ狀態ニア

ルコトヘ、私共方々デ見受ケル所デゴザイ

マス、先程ノ御説明ノ中ニハ、此

次ニ華僑對策ノ問題デアリマスルガ、今

ノ點ニ付キマシテ十分ナル御説明ガ足ラナ

カツタノデ、彼等ノ不安ヲ露ラスヤウニ當

事シテ居リマスコトヘ、御説ノ通リデアリ

マス、之ヲ將來交易營團ガ出來マシタ場合

局ノ明細ナル御答辯ヲ希望スル次第デゴザ

イマス、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス〔拍手〕

〔國務大臣岸信介君登壇〕
○國務大臣(岸信介君) 御答ヘヲ致シマス、御質問ハ色々ノ點ニ觸レテ居リマスルガ、根本ニ於キマシテ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマスルノハ、現下ノ物資交流ハ過去ノ自由貿易時代トハ全然其ノ趣キヲ異ニ致シテ居リマシテ(拍手)所謂物動的ナ性格ニ依ツテ物資ノ交流ガサレテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ唯儲カルカラ物ガ賣レル、欲シイカラ買フト云フ事柄ガ許サレナイ狀況ニナツテ居ルノデアリマシテ、特ニソレガ戰力ノ增强ト云フ一點ニ集中サレナケレバナラナ

イ現下ノ必要カラ見マスルト云フト、過去ノ各種ノ統制ノ機構ガ不十分デアリマスモノヲ、完全ニ致ス趣旨ヲ以チマシテ、今回交易營團ヲ設立シヨウトルノデアリマス(拍手)營團ノ取扱範圍ニ關シマシテハ、先刻モ御答ヘ申上ゲタノデアリマスガ、尙ホ明確ニ申上ゲマスルト云フト、南方ノ占領地域ハ軍政ノ關係デ、是ハ除イテアリマス、其ノ他ノ滿洲、支那、佛印、「タイ」、「ドイツ」及ビ「イタリア」等トノ交易ハ、此ノ範圍ニ

スルモノダト御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、之ヲ付キマシテモ、現在ノ數量ガ減退シタ云フヤウナ點カラ見マシテモ、現在ノ數

ト其ノ儘其ノ規模ニ於テ存續スルト云フコ

ス
デゴザイマス、先程ノ御説明ノ中ニハ、此ノ點ニ付キマシテ十分ナル御説明ガ足ラナカツタノデ、彼等ノ不安ヲ露ラスヤウニ當事シテ居リマスコトヘ、御説ノ通リデアリマス、之ヲ將來交易營團ガ出來マシタ場合局ノ明細ナル御答辯ヲ希望スル次第デゴザイマス、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス〔拍手〕

〔國務大臣岸信介君登壇〕
○國務大臣(岸信介君) 御答ヘヲ致シマス、御質問ハ色々ノ點ニ觸レテ居リマスルガ、根本ニ於キマシテ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマスルノハ、現下ノ物資交流ハ過去ノ自由貿易時代トハ全然其ノ趣キヲ異ニ致シテ居リマシテ(拍手)所謂物動的ナ性格ニ依ツテ物資ノ交流ガサレテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ唯儲カルカラ物ガ賣レル、欲シイカラ買フト云フ事柄ガ許サレナイ狀況ニナツテ居ルノデアリマシテ、特ニソレガ戰力ノ增强ト云フ一點ニ集中サレナケレバナラナ

イ現下ノ必要カラ見マスルト云フト、過去ノ各種ノ統制ノ機構ガ不十分デアリマスモノヲ、完全ニ致ス趣旨ヲ以チマシテ、今回交易營團ヲ設立シヨウトルノデアリマス(拍手)營團ノ取扱範圍ニ關シマシテハ、先刻モ御答ヘ申上ゲタノデアリマスガ、尙ホ明確ニ申上ゲマスルト云フト、南方ノ占領地域ハ軍政ノ關係デ、是ハ除イテアリマス、其ノ他ノ滿洲、支那、佛印、「タイ」、「ドイツ」及ビ「イタリア」等トノ交易ハ、此ノ範圍ニ

トハ、恐ラク何人モ之ヲ期待シテ居ラナイ
グラウト思ヒマス、私共ハ之ニ對シマシテ
ハ、適當ナ整備ノ方策ヲ講ズル積リデアリ

マスルガ、其途上ニ於テ御懸念ニナツテ
居ルヤウナ、貿易業者ガ其ノ生活ニ迷フト
カ、生活上ノ不安ノ爲ニ色々ノ事態ガ生ズ
ルト云フヤウナコトハ、萬ナイヤウニ十分
ニ施策ヲスル積リデアリマス

特ニ貿易業者ガ多年物資ノ交流ト云フヤ
ウナ事柄ニ對シテ持ツテ居リマスル知識經
驗ト云フモノヲ活カシテ、將來モ之ヲ活用
ケル集荷配給等ノ業務ノ上ニ於キマシテ、
易機構ノ整備ニ當リマシテ、又各地域ニ於
スル、大東亞共榮圈全體ニ於ケル各種ノ交
活用スキモノニ付キマシテハ、出來ル限
リ活用シテ參リタイト考ヘテ居リマス(拍
手)

○議長(岡田忠彦君) 是ニテ質疑ハ終了致
シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ
選舉ニ付テ御詰リ致シマス

○森下國雄君 日程第四乃至第六ノ三案ヲ
一括シテ議長指名三十六名ノ委員ニ付託セ
ラレンコトヲ望ミマス

○議長(岡田忠彦君) 森下君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ議
事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程
事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程

ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ
散會致シマス

午後二時四十分散會

